

確定版

令和5年度 神納地域 住民アンケート集計結果

実施時期 : 令和5 (2023) 年春
実施方法 : 調査票の個別配布・個別回収
配布数 : 1,359通
有効回答数 : 1,232通
有効回答率 : **90.7%**

かなり高い回答率！ (地域住民の意向がしっかりと反映されているデータ)

神林地区まちづくり協議会連絡会議/神納地域まちづくり協議会

令和4年度 住民アンケート

- 本アンケートは、神林地区に暮らしている中学生以上の全住民を対象に実施するものです。一人ひとりからお考えを伺うことで、世代別・男女別の考え・ニーズを把握・整理し、これからの取り組みに反映していきます。
- 回答は無記名でお願いします。結果は、個人が特定されない形で集計・分析します。
- アンケート用紙は、お一人ずつ提出していただきますので、家族で意見が違って構いません。思っていることをそのまま回答してください。

問1 あなたの年齢と性別について、あてはまるもの**1つ**に○をつけてください。

(年齢) 1. 中学生～19歳 2. 20～29歳 3. 30～39歳 4. 40～49歳
5. 50～59歳 6. 60～69歳 7. 70～79歳 8. 80歳以上

(性別) 1. 男性 2. 女性

問2 家族構成について、あてはまるもの**1つ**に○をつけてください。

1. 1人暮らし 2. 夫婦のみ 3. 二世帯同居 (親と子)
4. 三世帯以上同居 (親と子と孫など) 5. その他

問3 あなたの仕事にあてはまるもの**すべて**に○をつけてください。

1. 農業 2. 林業 3. 漁業 4. 自営業 5. 会社員 6. 公務員・団体職員
7. パート・アルバイト 8. 専業主婦(夫) 9. 中学生 10. 高校生・高専生
11. 大学生・短大生・専門学校生 12. その他() 13. 無職

※仕事されている方は、以下もお答えください。

問3-2 休日はいつですか。(祝日を除く)

1. 土曜(毎週)と日曜 2. 土曜(隔週)と日曜 3. 日曜のみ 4. 平日 5. 不定期 6. その他

問4 日常の**主な交通手段**は何ですか。あてはまるもの**1つ**に○をつけてください。

1. 自動車(自分で運転) 2. 自動車(送迎してもらう) 3. バイク(原付を含む) 4. バス
5. タクシー 6. のりあいタクシー 7. 自転車 8. 徒歩 9. その他()

問5 あなたは**自動車運転免許**を持っていますか。あてはまるもの**1つ**に○をつけてください。

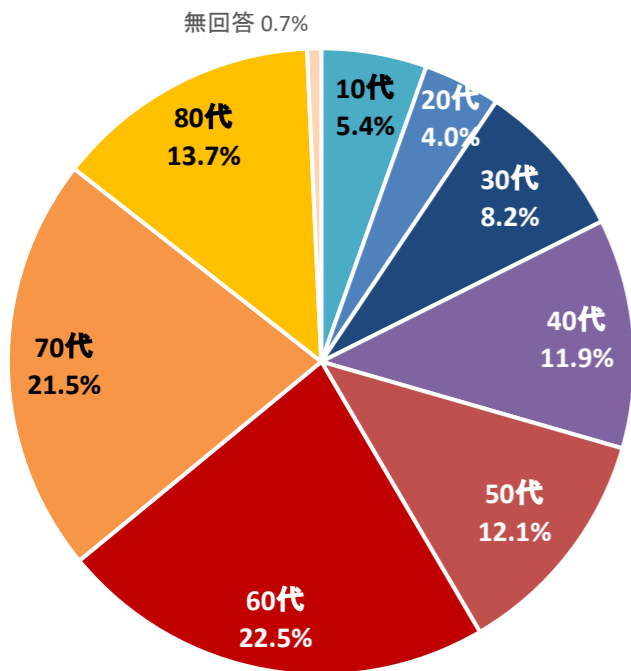
1. 持っている 2. 返納した 3. 持ったことはない 4. その他()

※免許を持っている方にお聞きします

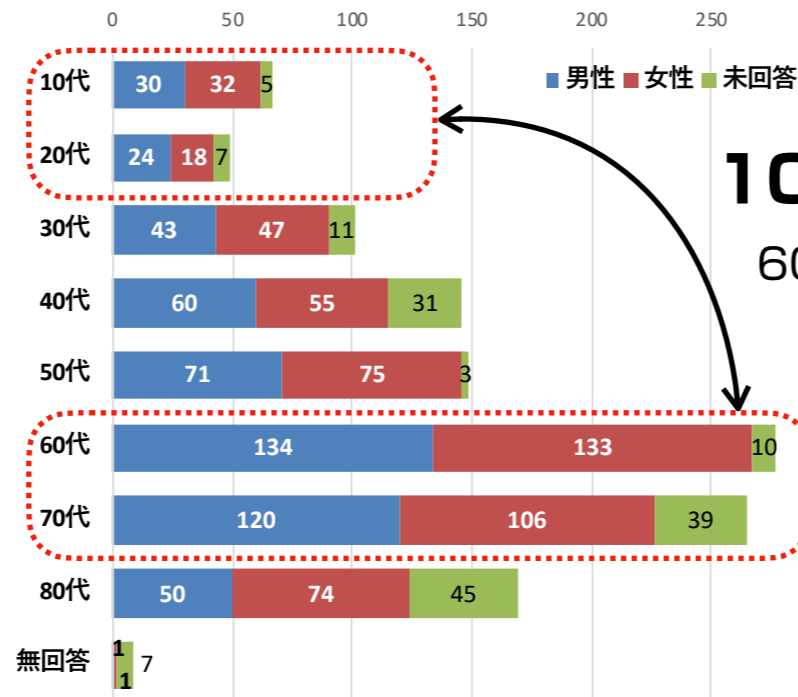
問5-2 自動車の**運転に不安**を感じることはありますか。あてはまるもの**すべて**に○をつけてください。

1. 不安は感じない 2. 夜間や冬期など不安を感じることはある
3. 友人や知人など乗せることに不安を感じる 4. その他()

回答者属性 (年代別)



回答者属性 (年代別×男女別)

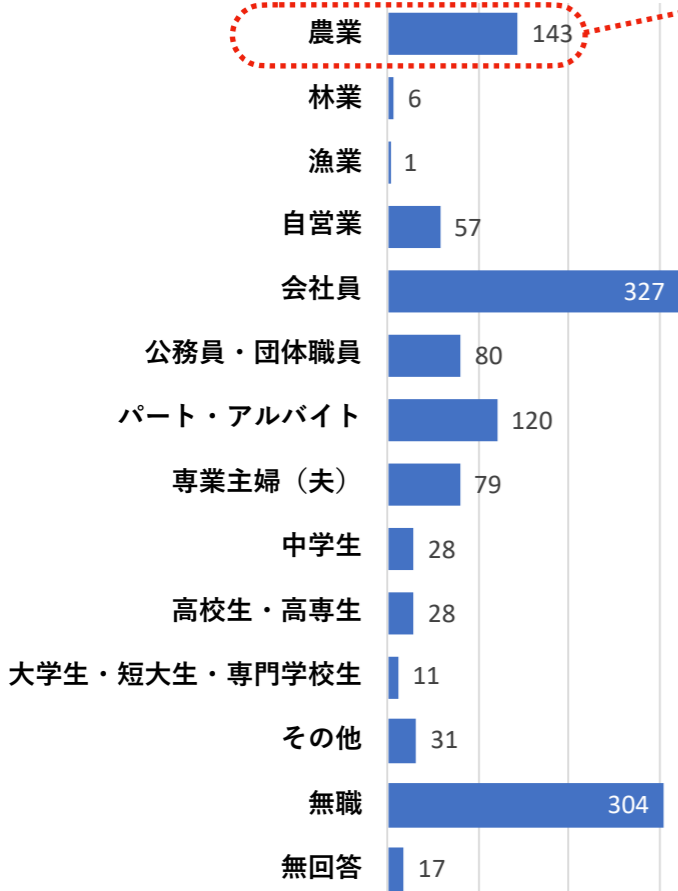


10~20代は
60~70代の約1/5

若者世代は少数派。
人数では年配層が完全に多数派。

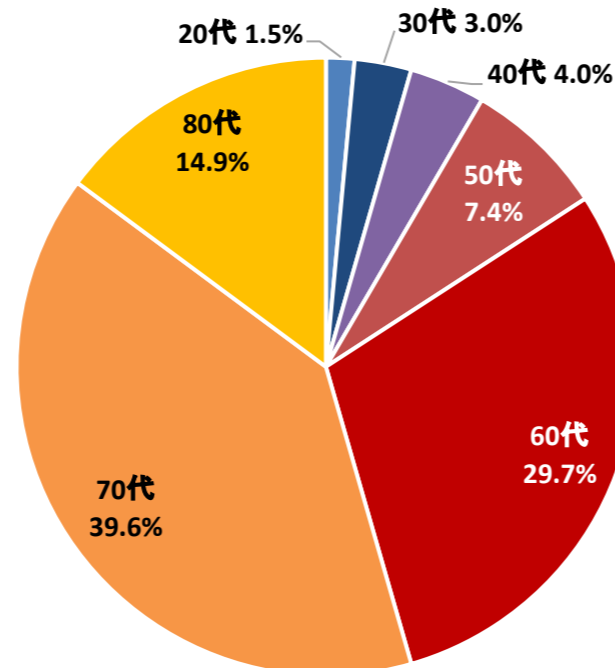
そのため、アンケート結果は、数を比較するのではなく、年代別の回答割合を比較し、世代間の意識の違いを浮かびあがらせています。

回答者属性 (職業)



農作業従事者の年代構成 (割合)

※専業143人+兼業59人=202人



農作業従事者の84.2%が60代以上

農作業従事者の年代構成

年代	人数
10代	0
20代	3
30代	6
40代	8
50代	15
60代	60
70代	80
80代	30
計	202

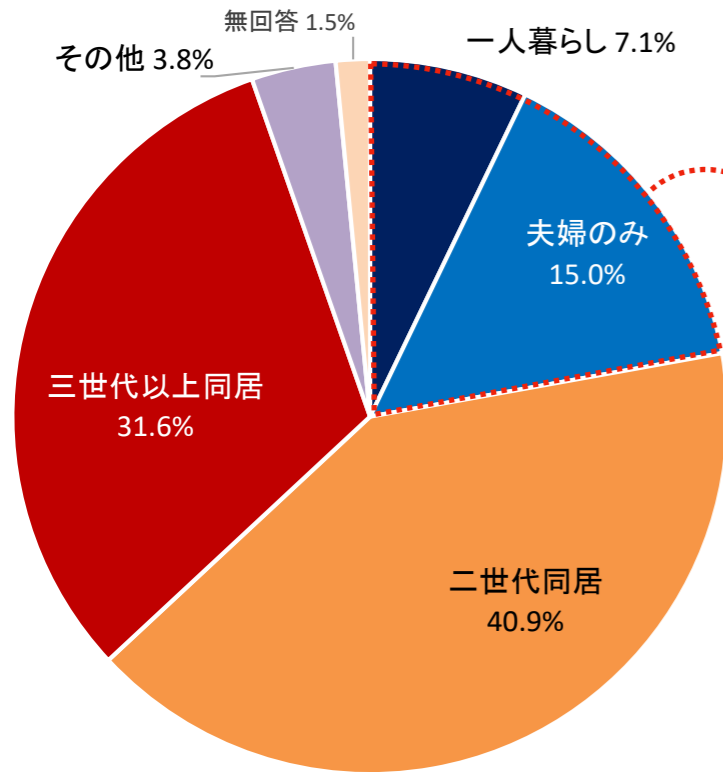
20年後は70人程度!?

農地の維持管理は
将来どうなる?!

回答者属性 (家族構成)

村上市・神納地域 (2023)

回答者属性 (世帯構成)

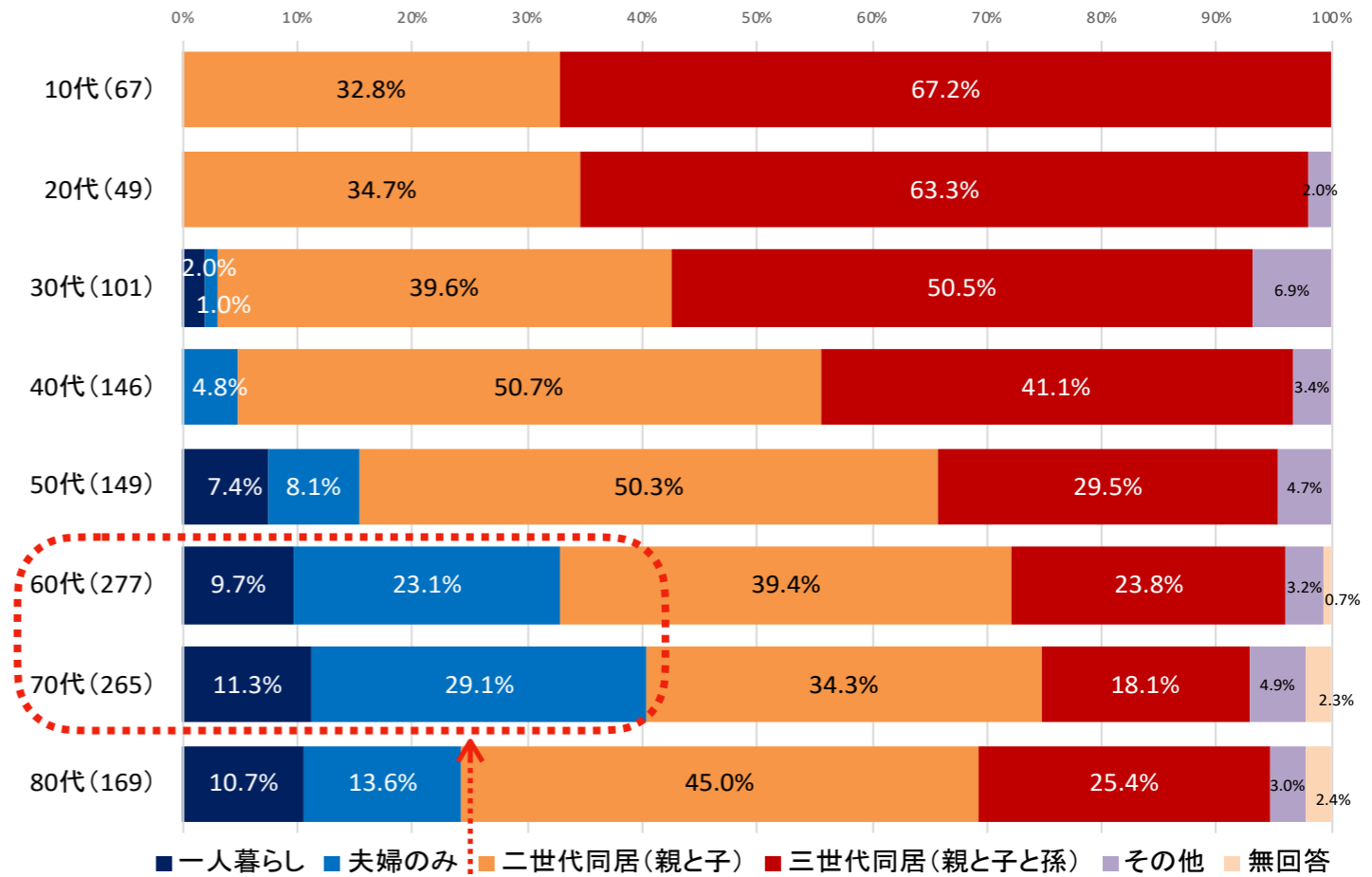


72.5%が親子世帯

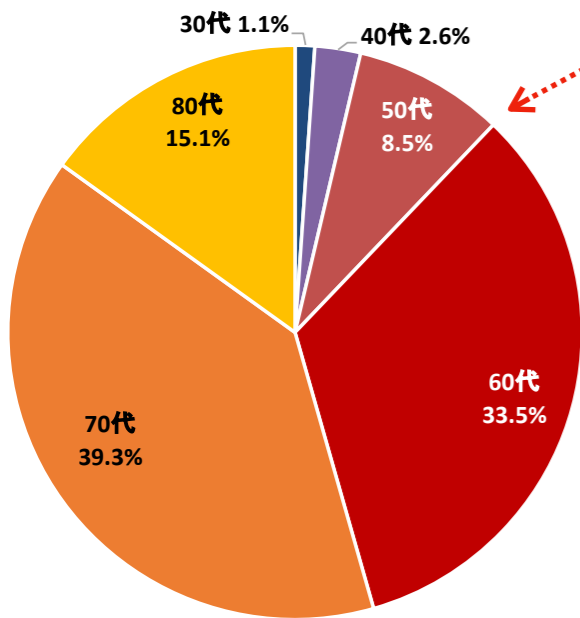
単身+夫婦のみ世帯の年代構成をみると...

年代別の家族構成

※括弧内の数値は回答者数



60~70代の3~4割は単身もしくは夫婦のみ世帯



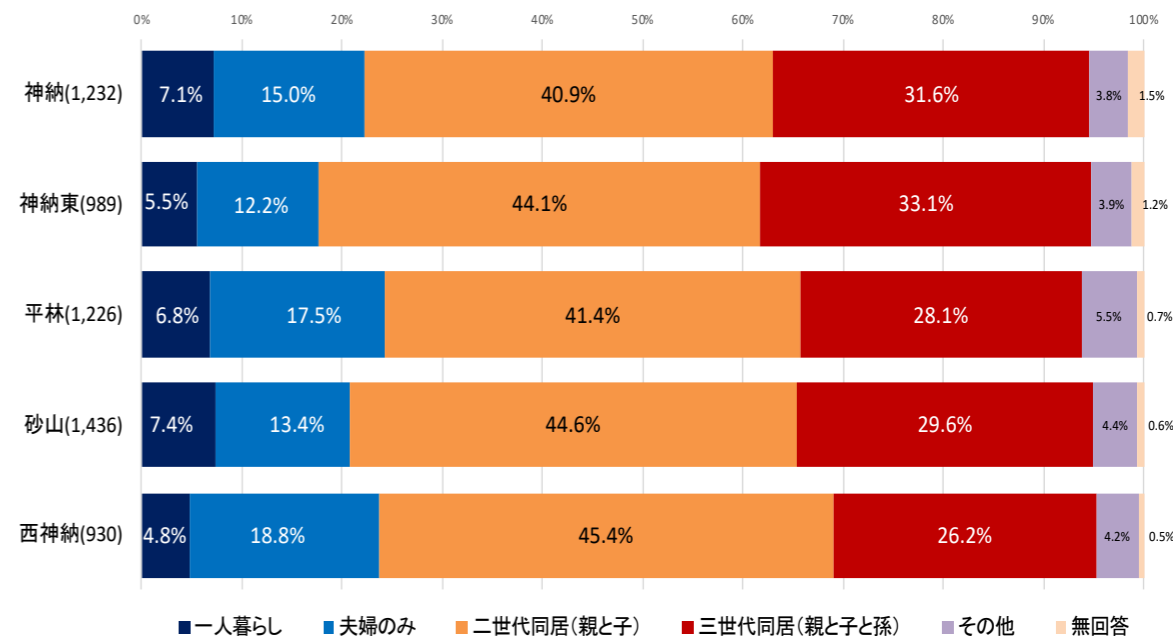
単身及び夫婦のみ世帯の
87.9%が60代以上

単身+夫婦のみ世帯は
大半が高齢世帯!

単身+夫婦のみ世帯の年代構成

地域別の家族構成

※括弧内の数値は回答者数



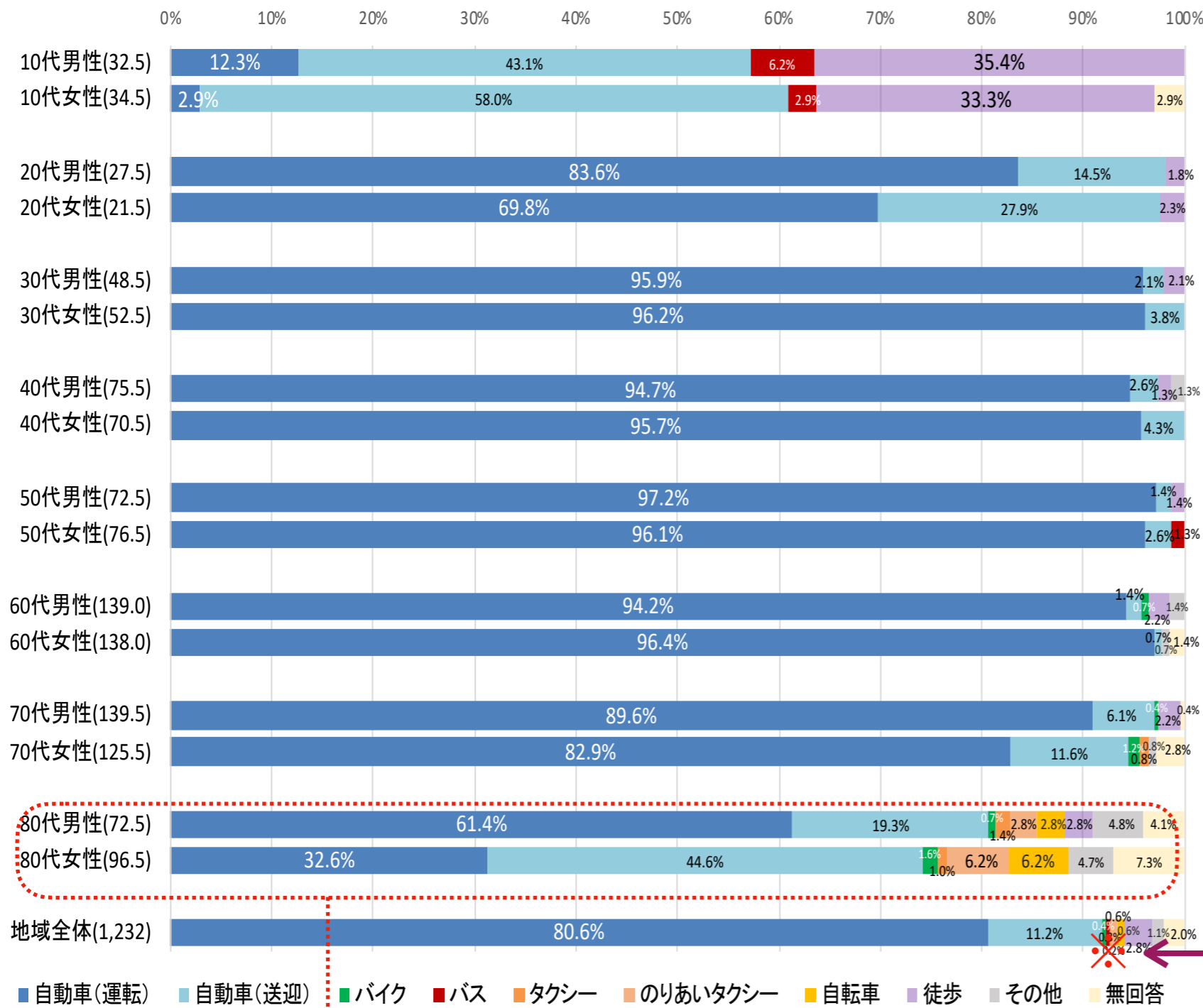
※神納地域は一人暮らし&三世帯同居の割合が区内でも高い

年代別・男女別の日常的な交通手段

村上市・神納地域（2023）

※括弧内の数値は回答者数（性別未回答者は按分して男女に振り分け（0.5人として各々に加算））／主な交通手段1つを抽出して集計

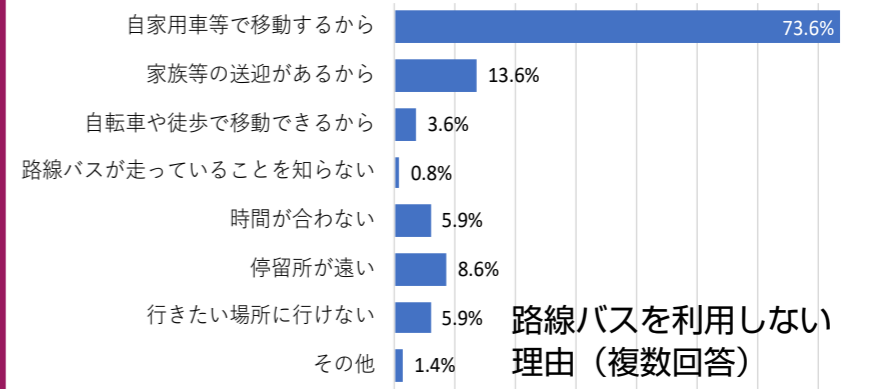
移動手段は自動車（自ら運転）が大半



公共交通は交通手段としてはほとんど挙がっていない

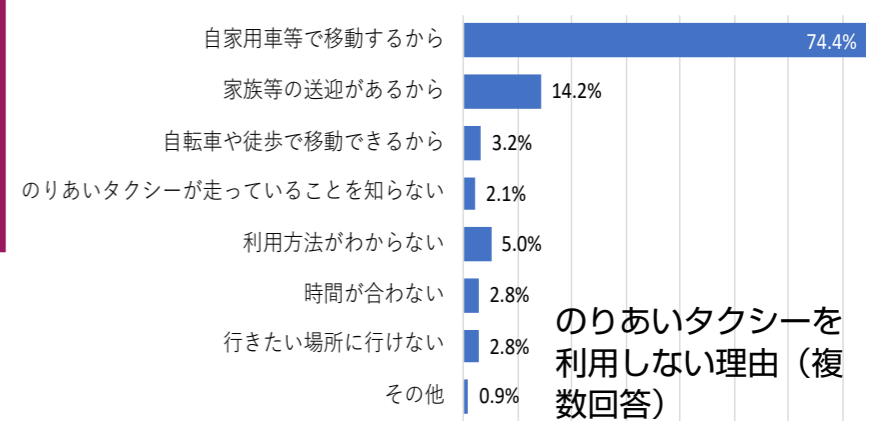
月数回以上、路線バスを利用する

9人 / 1,232人 (全体の0.7%)
(年数回以上は22人 (全体の1.8%))



月数回以上、のりあいタクシーを利用する

12人 / 1,232人 (全体の0.9%)
(年数回以上は28人 (全体の2.3%))



80代になると自動車（自ら運転）の割合が低下
女性は半数近くが「車での送迎」が主な移動手段に

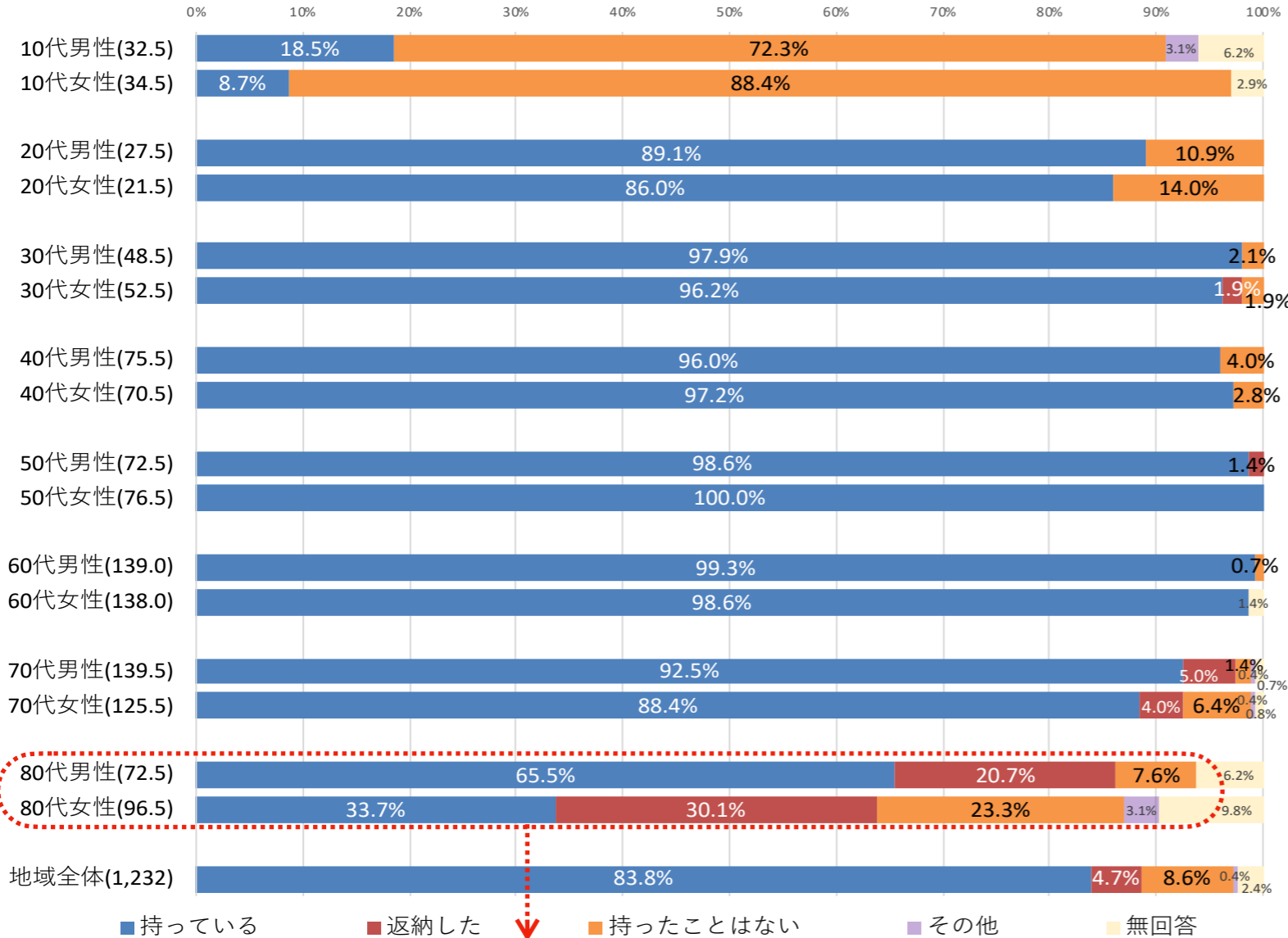


高齢になると親族等による自動車での送迎が
主な交通手段となっている。

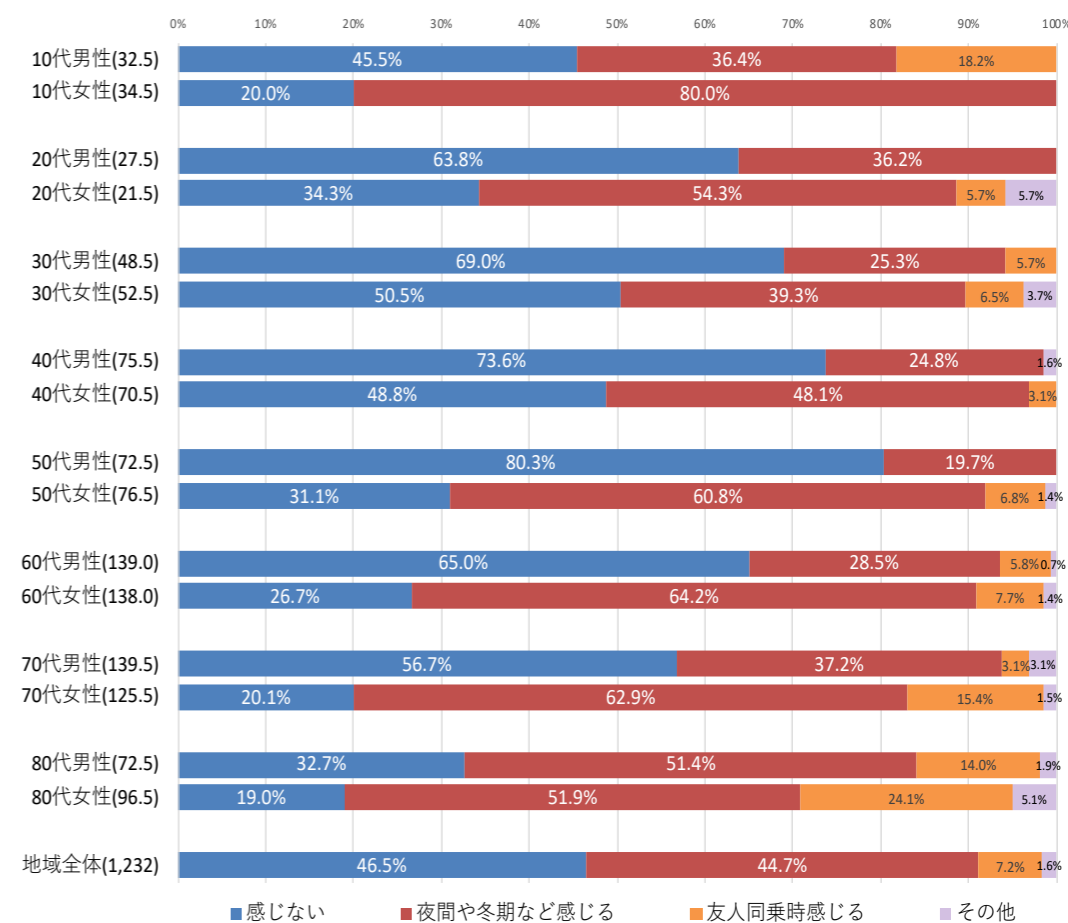
自動車運転免許保有状況

村上市・神納地域 (2023)

※括弧内の数値は回答者数 (性別未回答者は按分して男女に振り分け (0.5人として各々に加算))



運転への不安



男性に比べ、女性は運転に不安を感じている割合が高い。(特に夜間や冬期)

80代になると免許なし(返納含む)の割合が増加

※80代女性は、免許返納が3割+もともと持っていないが2割

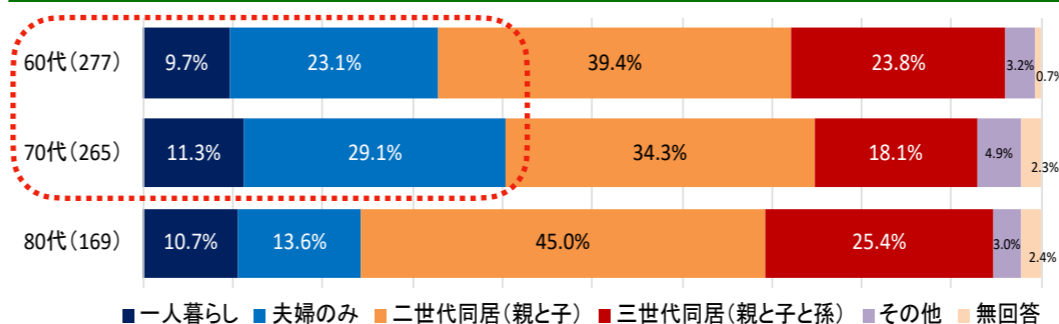
注意!

(今まで)
80代になり自分で車の運転ができなくなっても、**親族等による車での送迎**で移動手段は確保されてきた。



(これから)
今の70代以下は、**独居・夫婦のみ世帯が多い**。親族等による車での送迎を、今までと同じようにあてにできるか?

年代別の家族構成(再掲)



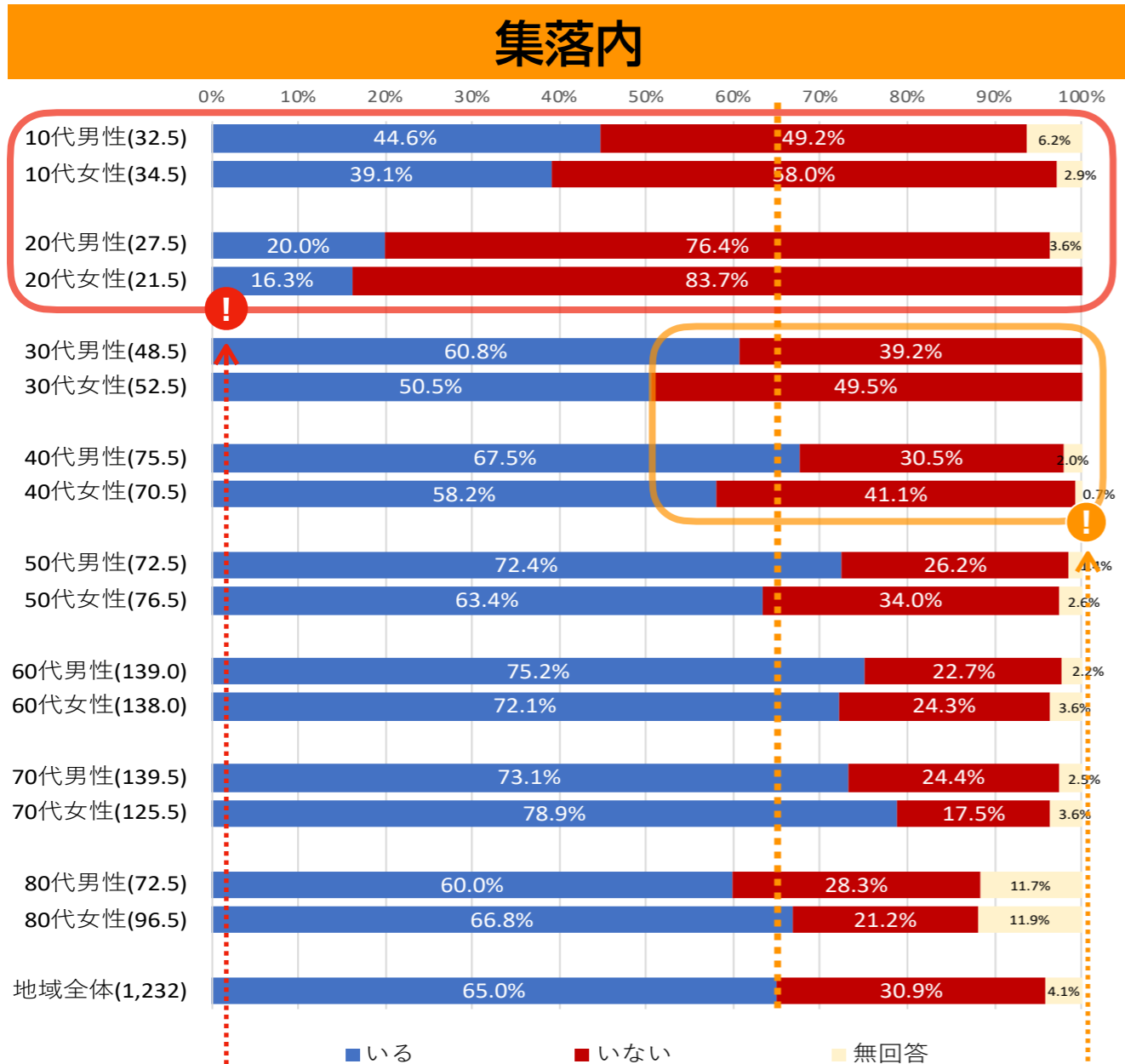
ほとんど使われてはいないが、だからといって**公共交通はこのままで本当によいのか?!**

家族以外の相談相手の有無

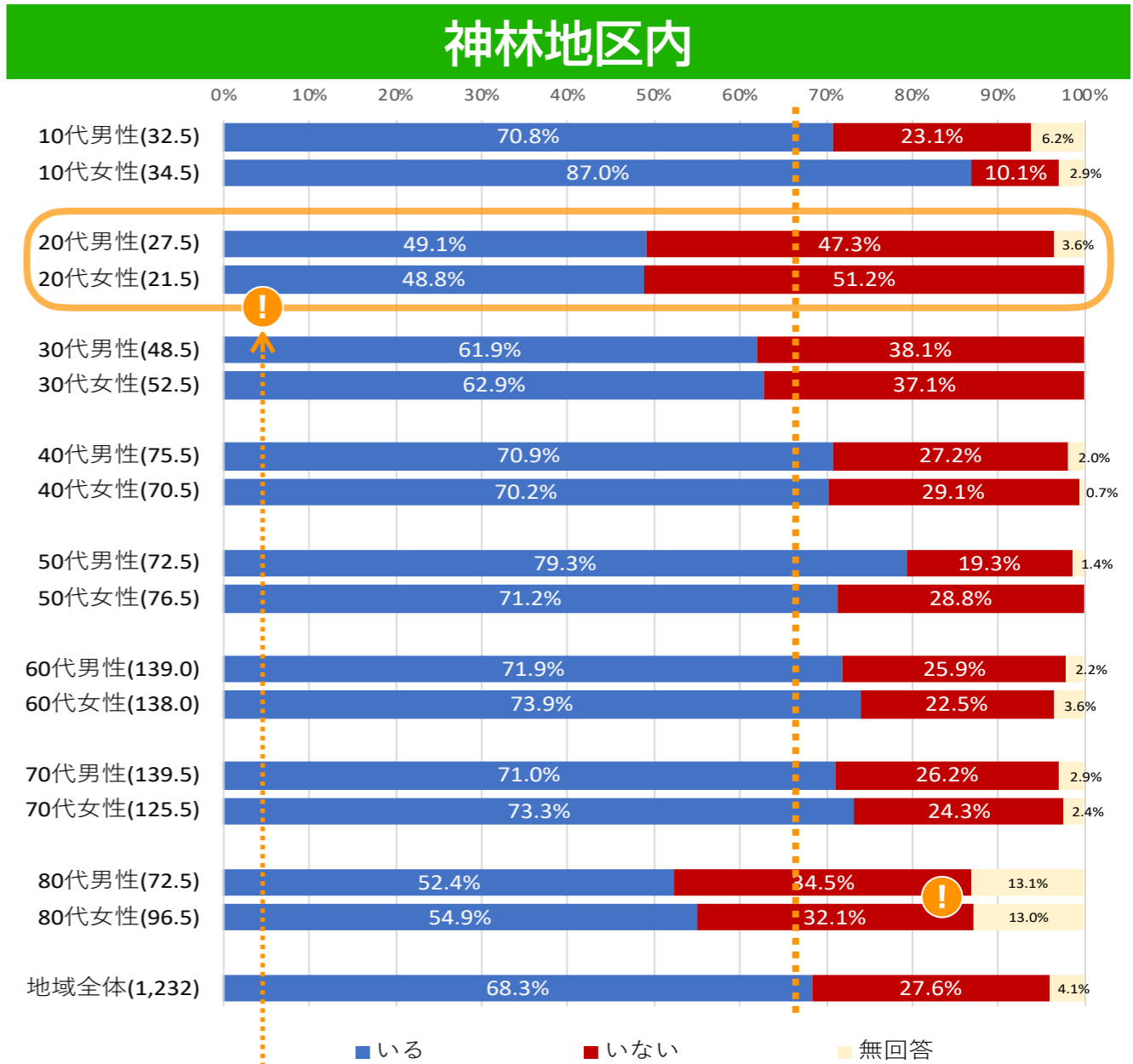
村上市・神納地域（2023）

※括弧内の数値は回答者数（性別未回答者は按分して男女に振り分け（0.5人として各々に加算））

集落内・地区内共に約2/3が相談相手がいると回答



【注意】
10代は5～6割／20代は7～8割が
集落内に相談相手がない（30～40代も4～5割）

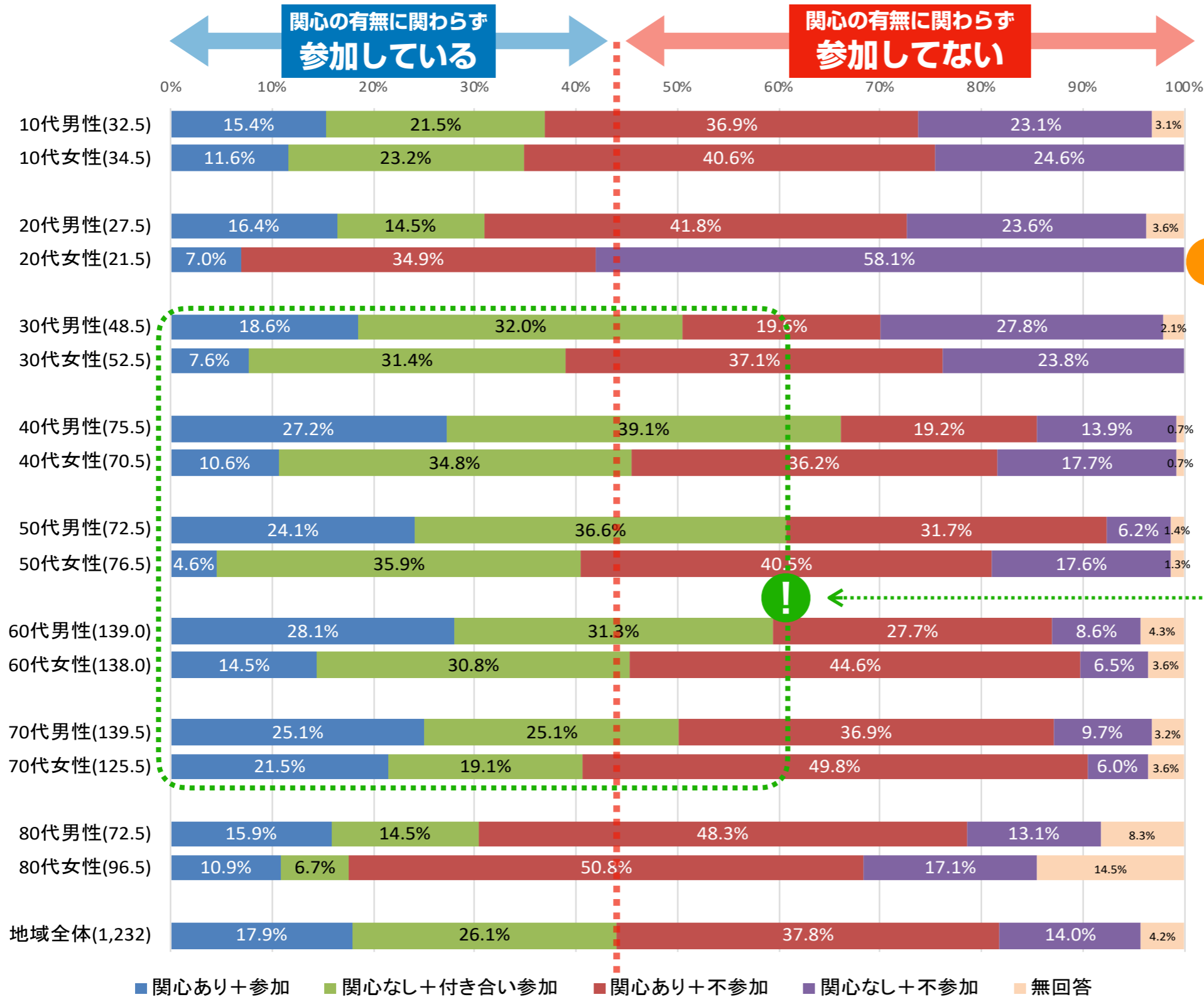


【注意】
20代は約半数が地区内にも相談相手がない（80代も4～5割）

地域活動への関心

村上市・神納地域（2023）

※括弧内の数値は回答者数（性別未回答者は按分して男女に振り分け（0.5人として各々に加算））



【注意！】
20代女性は
関心なし+不参加
が6割近く

30～70代男性は
5～6割が参加している

関心あり+不参加は
どの年代でも
3～5割いる

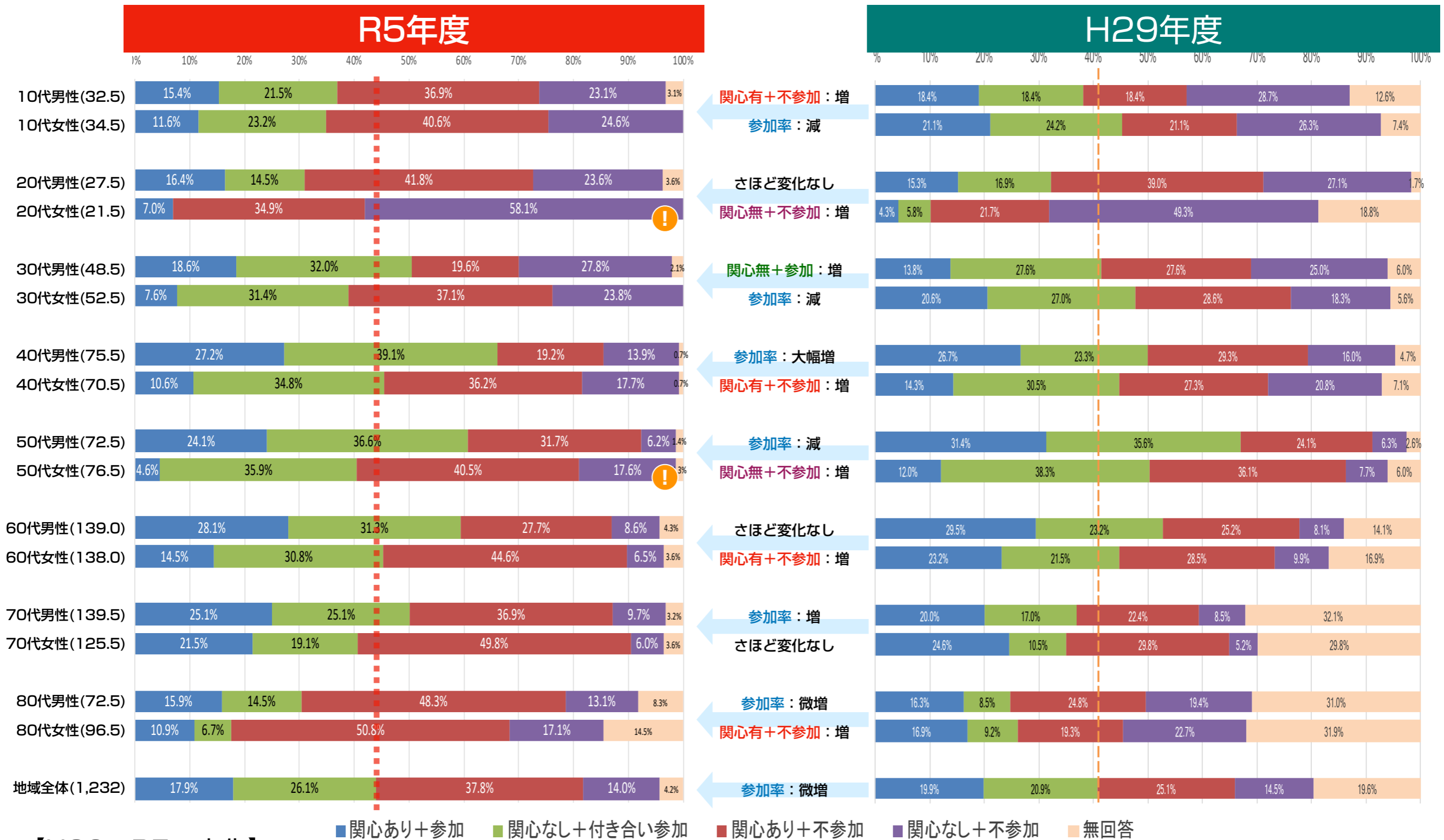
||
参加の機会・方法の
さらなる多様化を！

4割以上が関心の有無に関わらず地域活動に参加している
女性は「関心があっても参加していない」割合が男性に比べて高い。

地域活動への関心（H29結果との比較）

村上市・神納地域（2023）

※括弧内の数値は回答者数（性別未回答者は按分して男女に振り分け（0.5人として各々に加算））



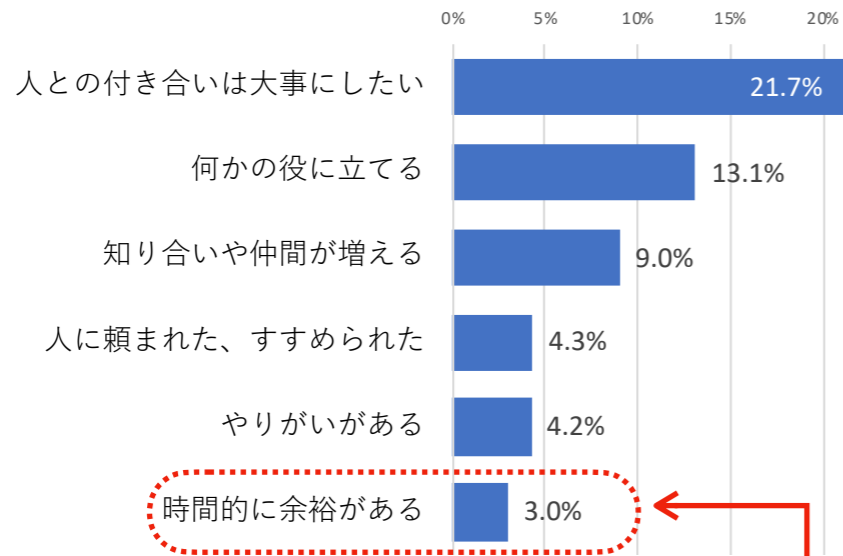
【H29→R5の変化】

- 参加率（「関心あり+参加」および「関心なし+付き合い参加」を合算した割合）は微増
- 「関心なし+不参加」の割合が20代女性・50代女性で増加

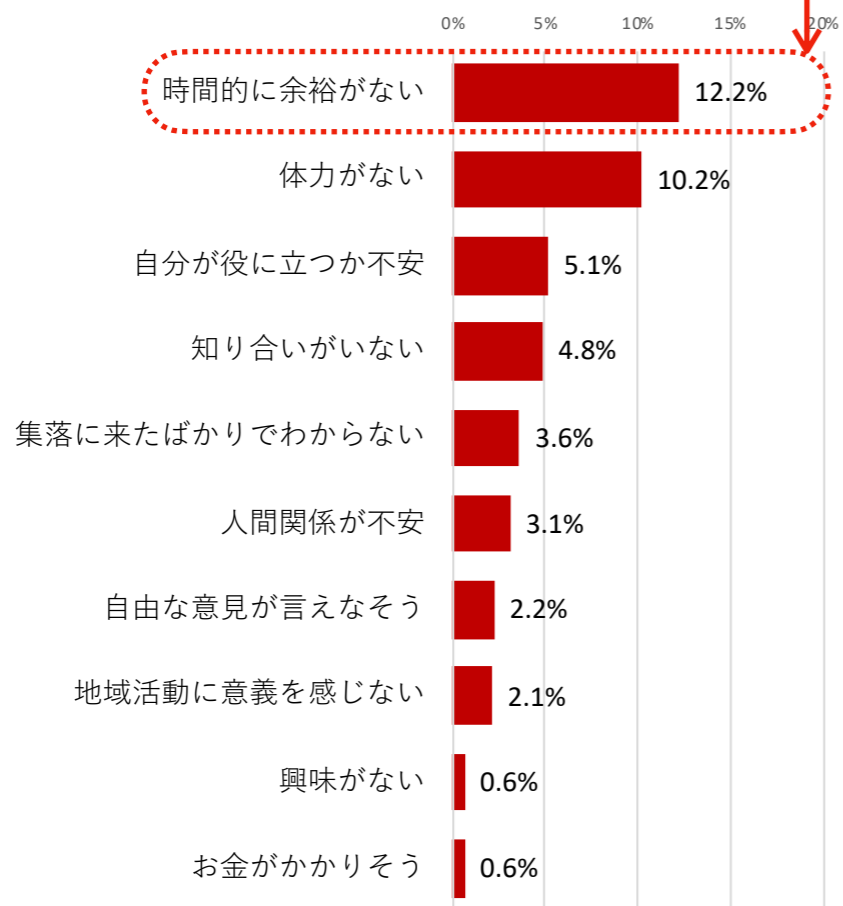
地域活動への関心 (回答理由)

※回答総数に対する回答割合 (割合が高いほど、多くの人が○を付けている) で集計。回答割合が高かった順番でグラフを作成。

参加している人の理由



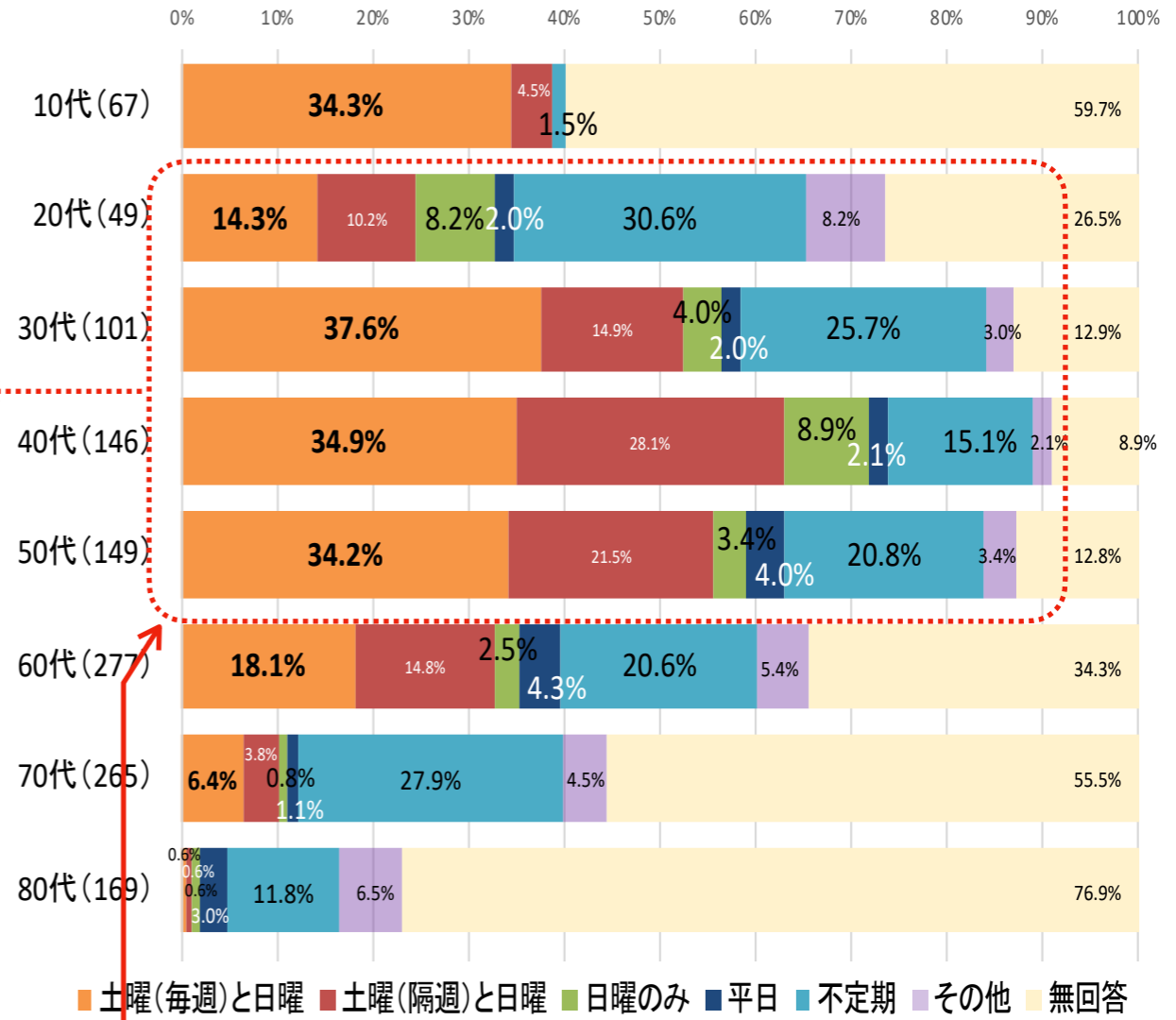
参加していない人の理由



必ずしも、時間に余裕があるから参加している訳ではない。
働いている世代は、必ずしも土日が休みではない。多様な参加の方法・工夫・配慮が必要。

休日はいつか？

※括弧内の数値は回答者数 (性別未回答者は按分して男女に振り分け (0.5人として各々に加算))



20~50代は必ずしも土日は休みではない

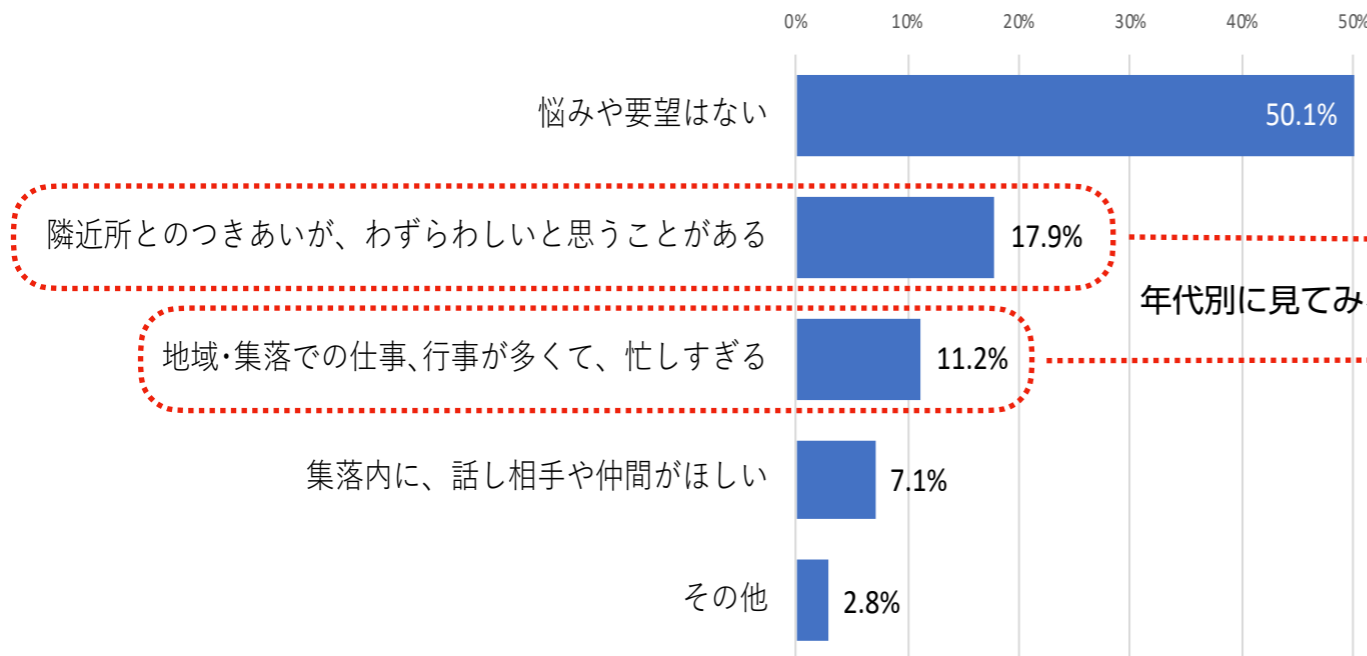
土曜日が毎週休み 約 1/3
日曜日が毎週休み 6~7割
20代は週末が休みなのは1/3

この世代の参加を求めるのであれば 曜日設定の配慮が不可欠！

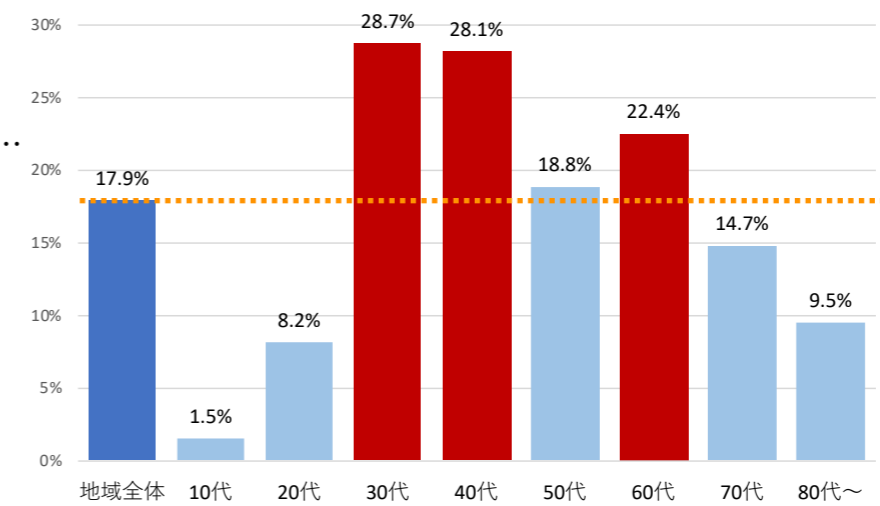
近所づきあいでの悩み

村上市・神納地域 (2023)

※回答総数に対する回答割合（割合が高いほど、多くの方が○を付けている）で集計。回答割合が高かった順番でグラフを作成。



隣近所とのつきあいが、わずらわしいと思うことがある

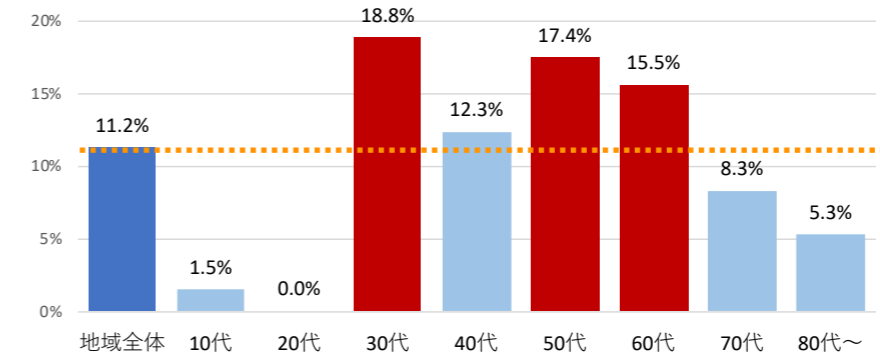


30～40代
及び60代
は地域平均
よりも高い

地域全体では半数以上が「悩みなし」

昔ながらの近所づきあいのやり方が、中堅世代の価値観に合わない部分が出てきている!?

地域・集落での仕事、行事が多くて、忙しすぎる



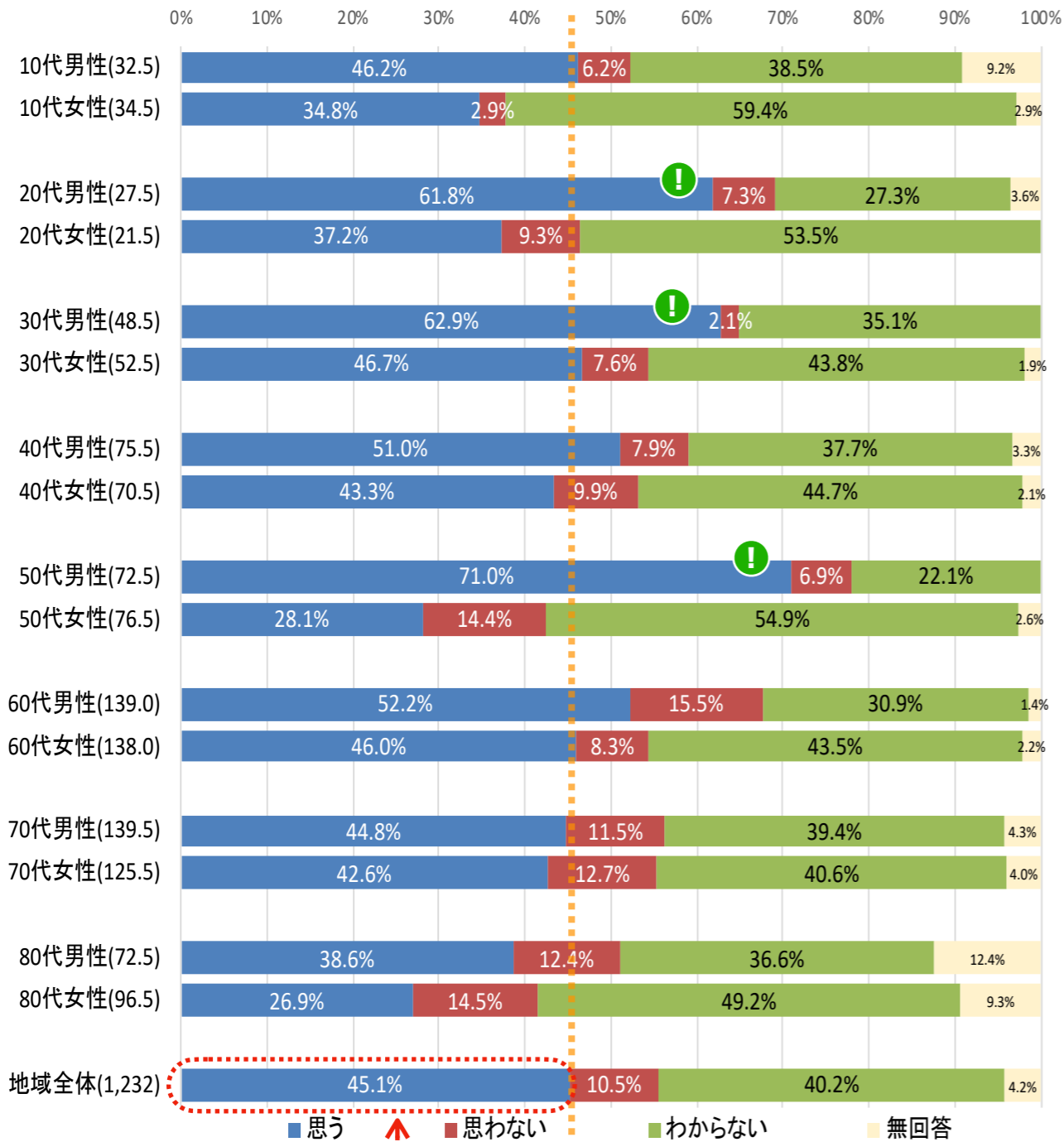
30代及び
50～60代
は地域平均
よりも高い

人口減少がさらに進展する将来を見据え、地域の営みを持続可能なものとするためには、これまでのやり方・活動内容を見直し、負担の軽減を図っていくことが不可避！

地域活動に参加している割合が高い世代が、多忙さ・負担の大きさを、より強く感じている。

定住受入の必要性

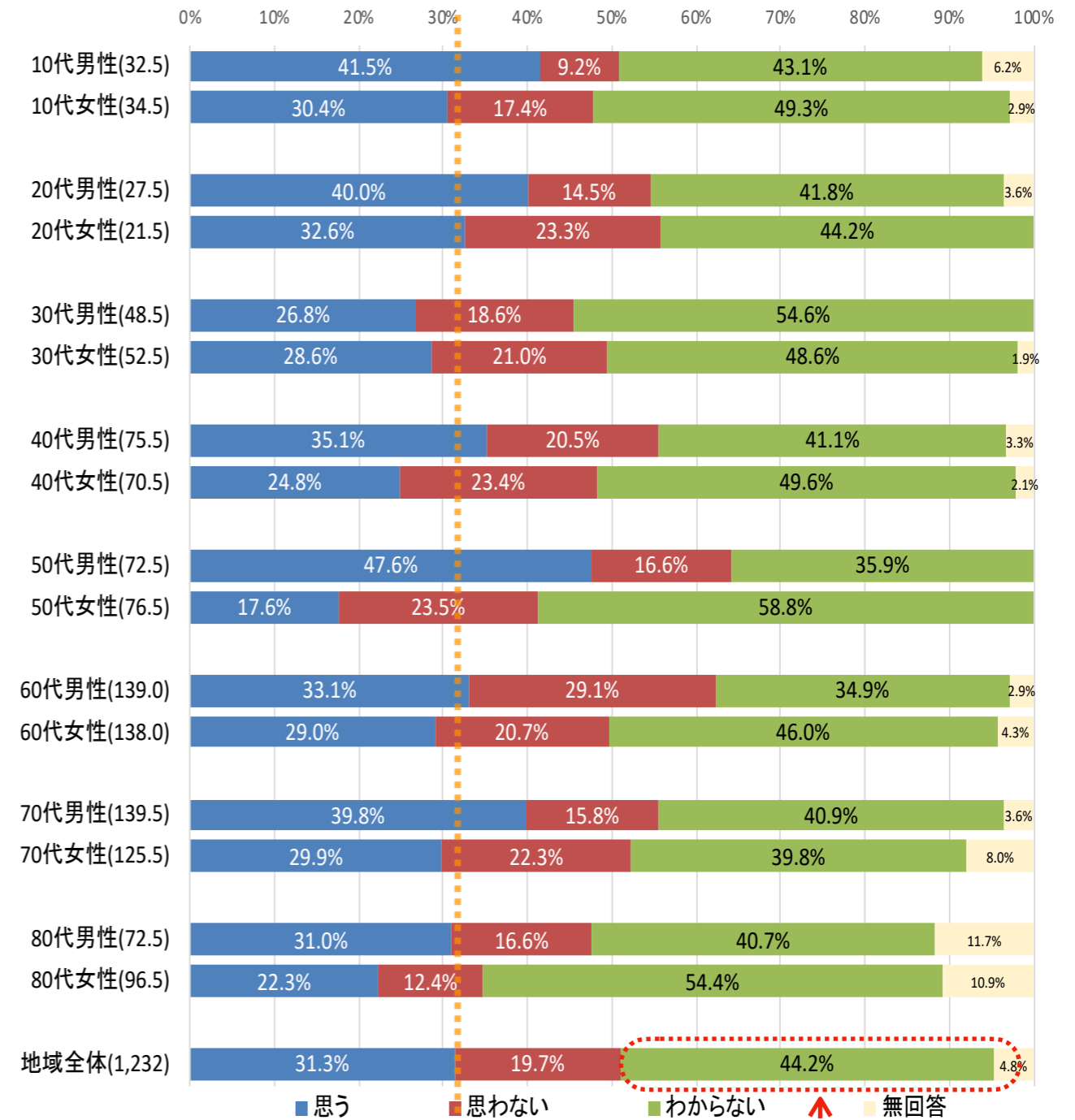
※括弧内の数値は回答者数（性別未回答者は按分して男女に振り分け（0.5人として各々に加算））



地域全体では半数近くが「必要」

20・30・50代男性は「必要」が6～7割

他地域との交流の必要性



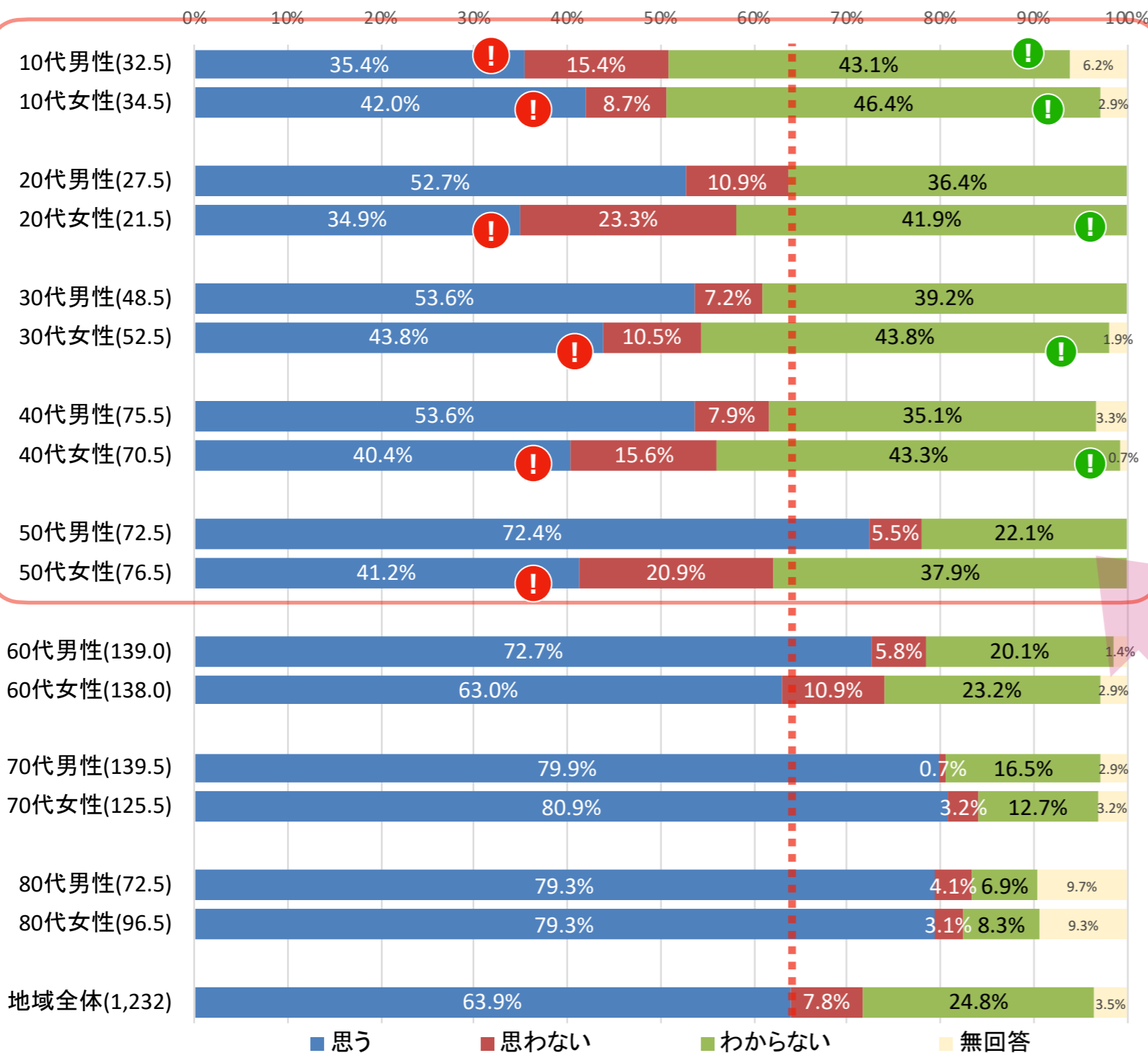
地域全体では4割以上が「わからない」

どの年代も賛否は半々→全体的に積極姿勢ではない

この地域に住み続けたいと思うか？

村上市・神納地域（2023）

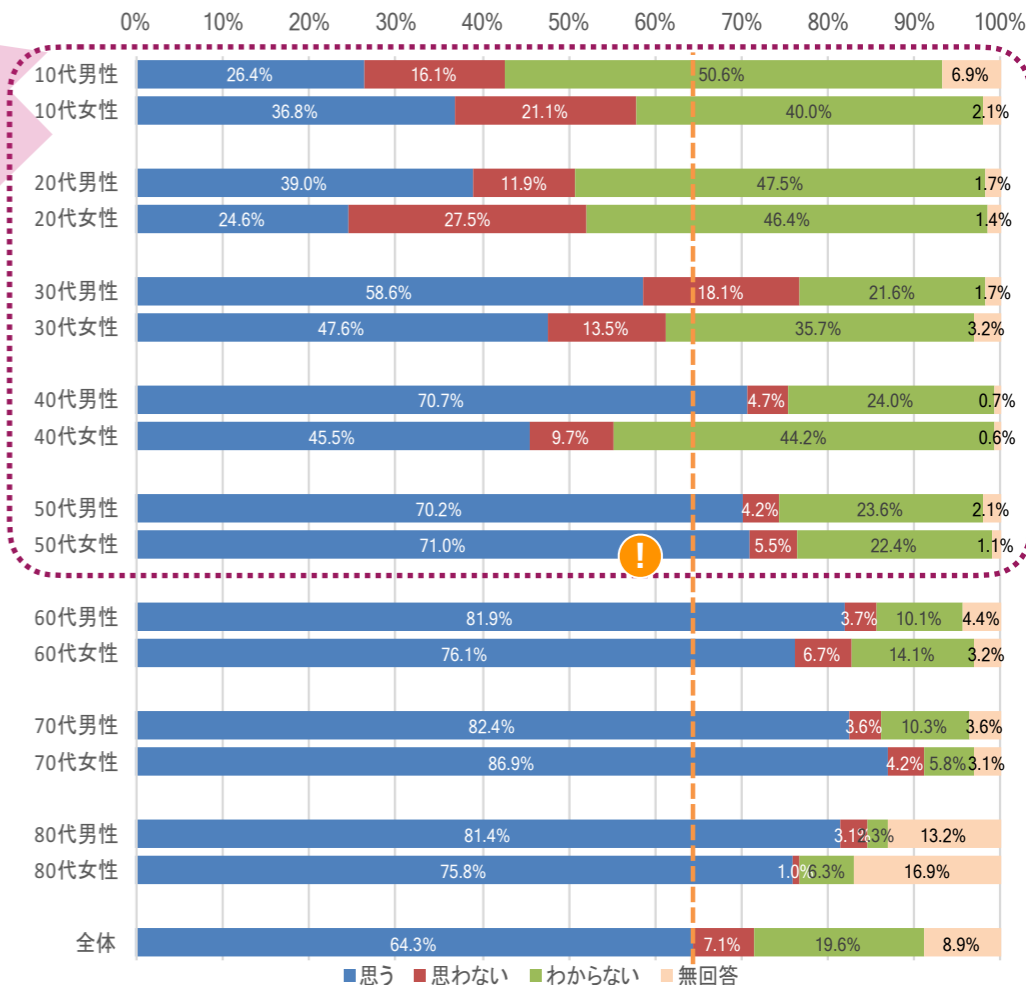
※括弧内の数値は回答者数（性別未回答者は按分して男女に振り分け（0.5人として各々に加算））



10代と20～50代女性の定住意向は3～4割と低い

ただし「わからない」も4割以上（これからの取り組み次第）

H29年度調査時の定住意向

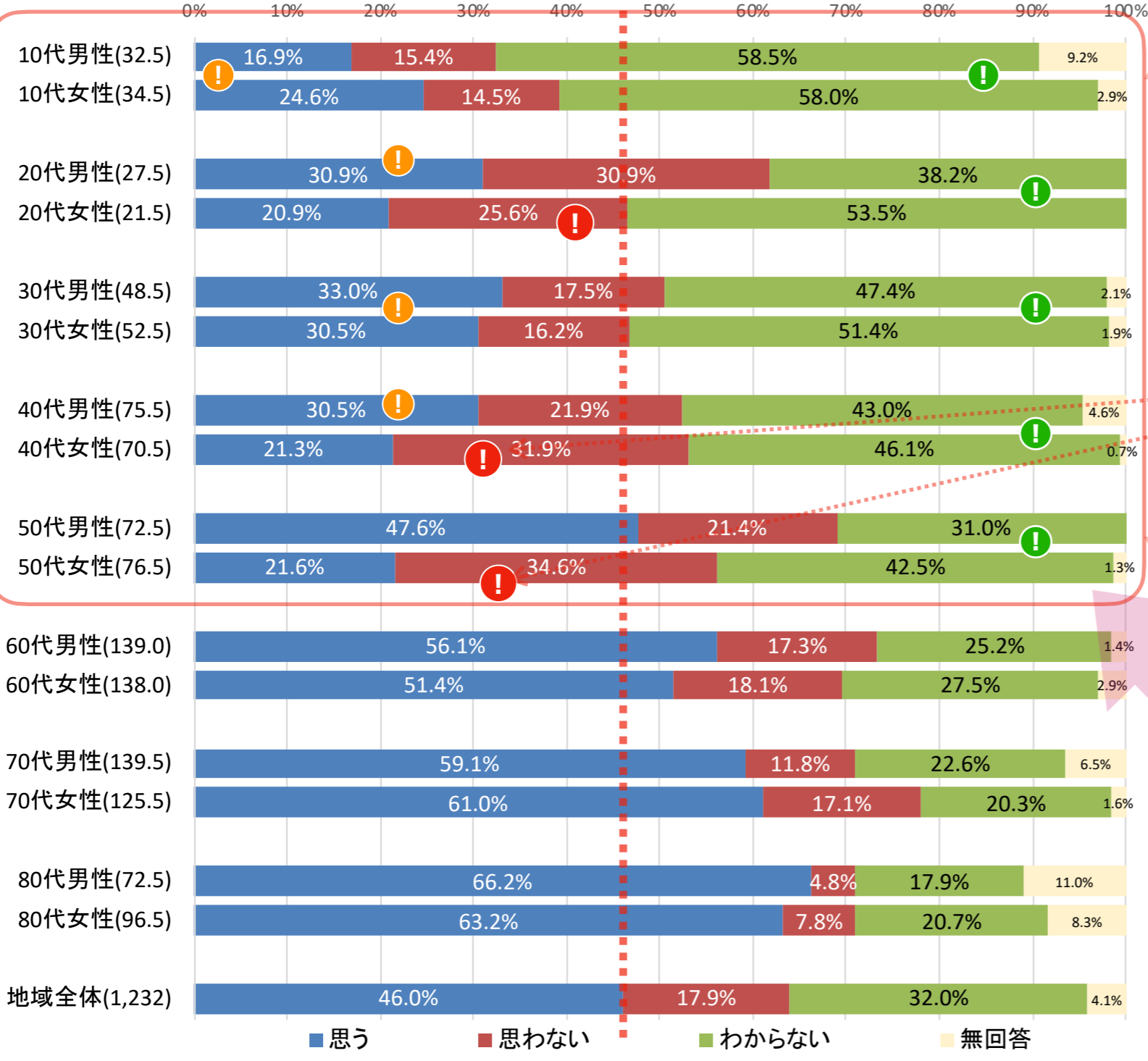


地域全体では「住み続けたいと思う」は6割以上

【注意！】前回調査（H29）に比べ、10・20代の定住意向は微増しているが、30～50代女性は低下（特に50代女性は大幅減）

自分の子どもにも住み続けてほしいと思うか？ 村上市・神納地域（2023）

※括弧内の数値は回答者数（性別未回答者は按分して男女に振り分け（0.5人として各々に加算））

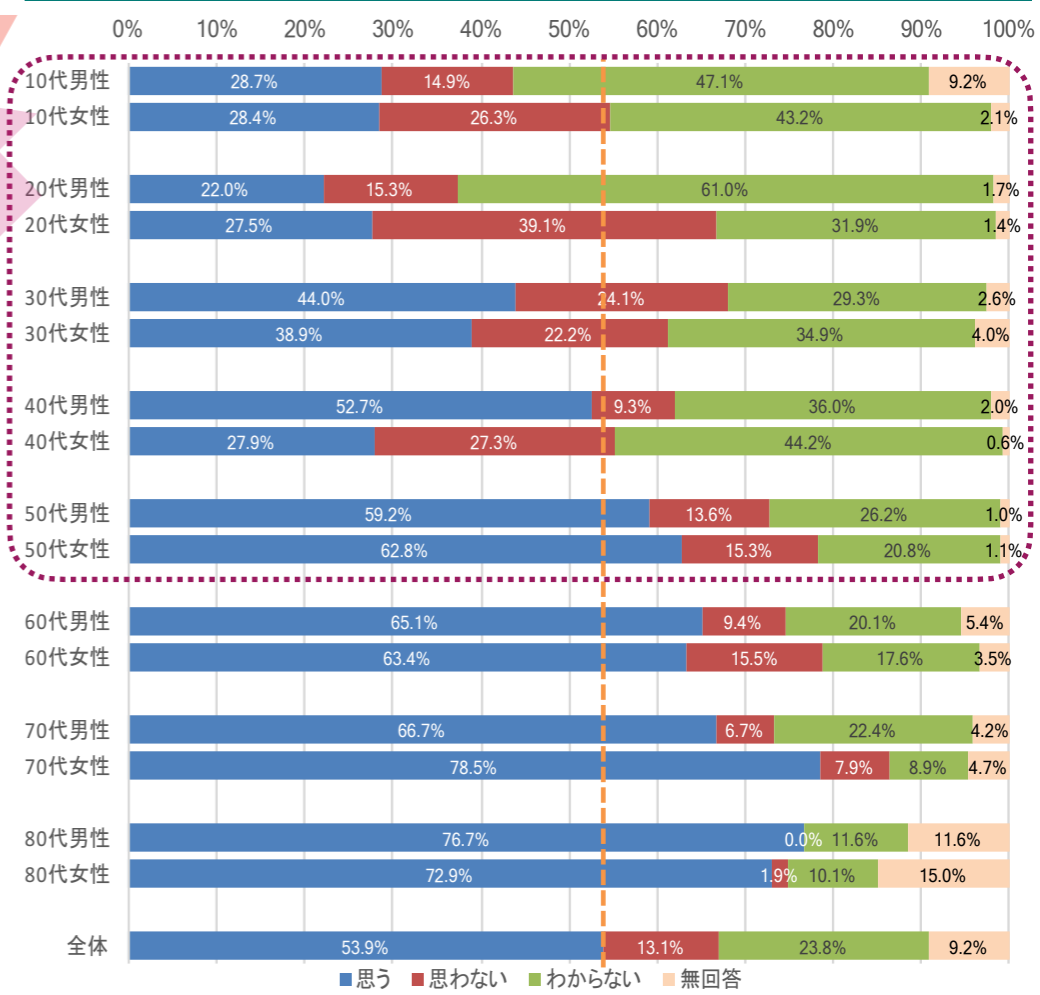


10～40代・50代女性は「住み続けてほしい」が2～3割と低い

ただし「わからない」が4～5割（これからの取り組み次第）

20・40・50代女性は「住み続けてほしいとは思わない」の方が多い

H29年度調査時の子どもへの定住希望



地域全体では「住み続けてほしい」が半数近く

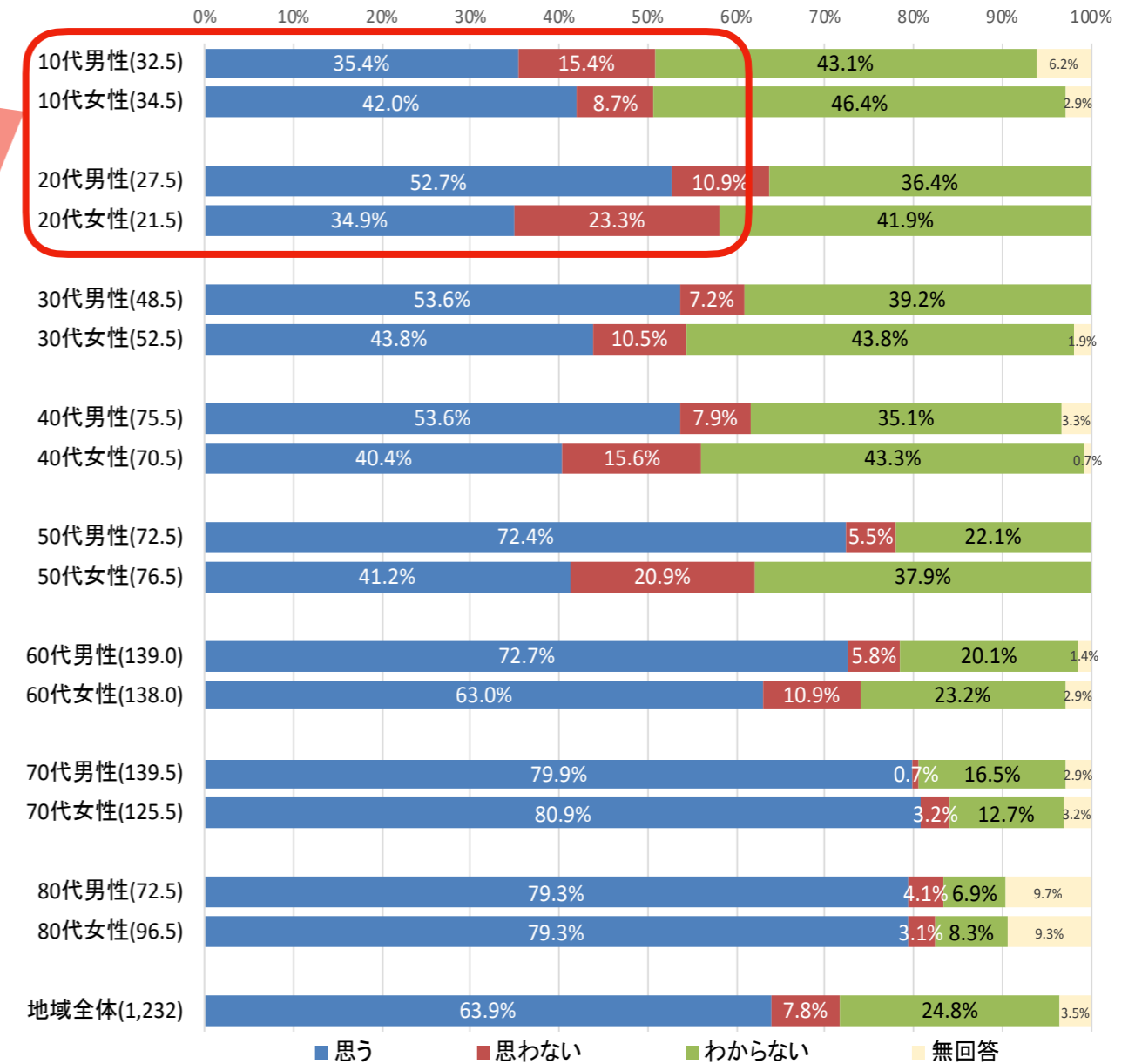
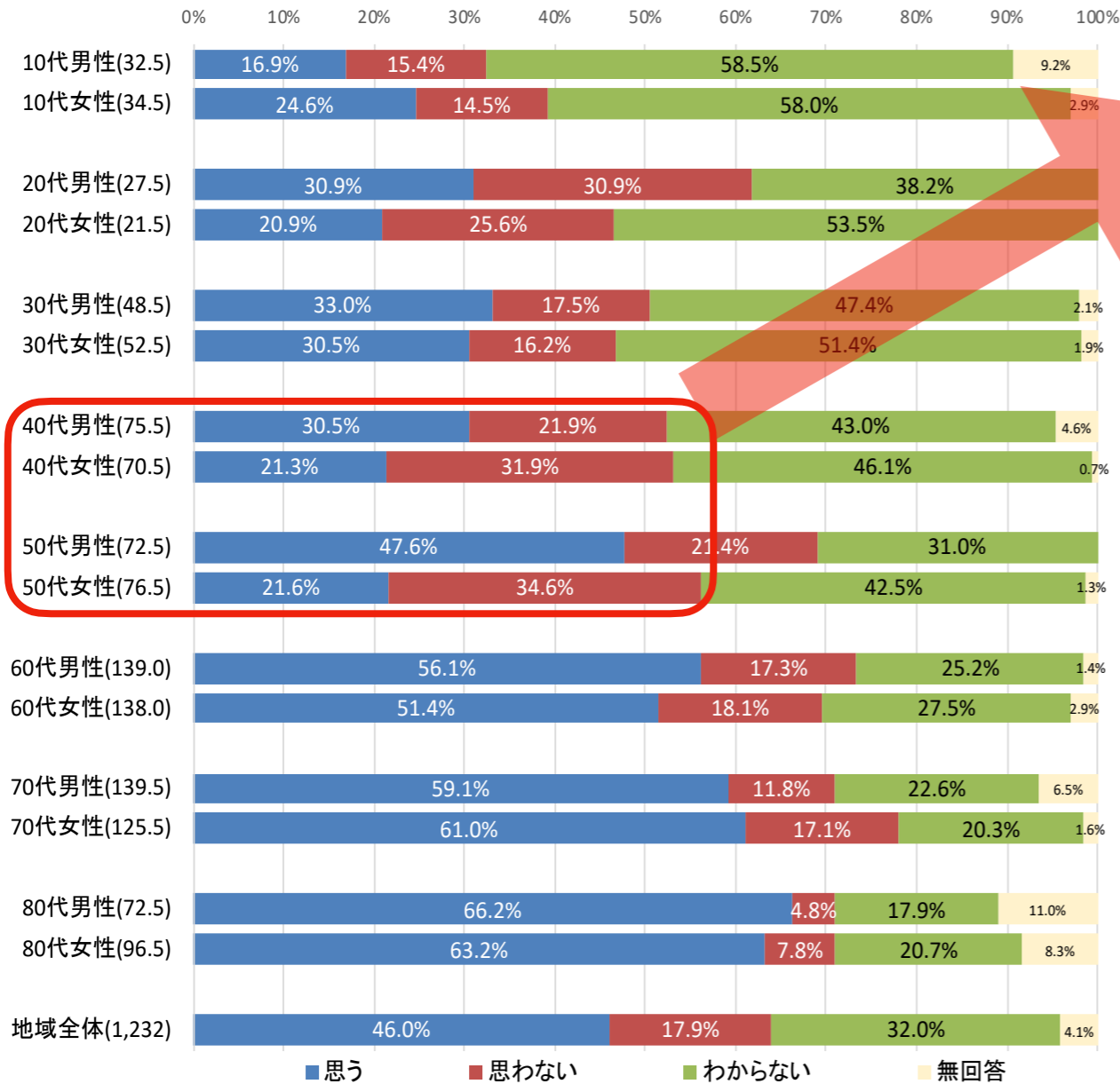
【注意！】前回調査（H29）に比べ、すべての年代で子どもへの定住希望が低下している！（40～50代の子育て中の親世代は特に）

子育て中の親世代（40～50代）が「子どもに住み続けてほしいと思わない」の割合が高い

子ども世代（10～20代）の定住意向割合が地域全体よりも低い

自分の子どもにも住み続けてほしいと思うか？

この地域に住み続けたいと思うか？

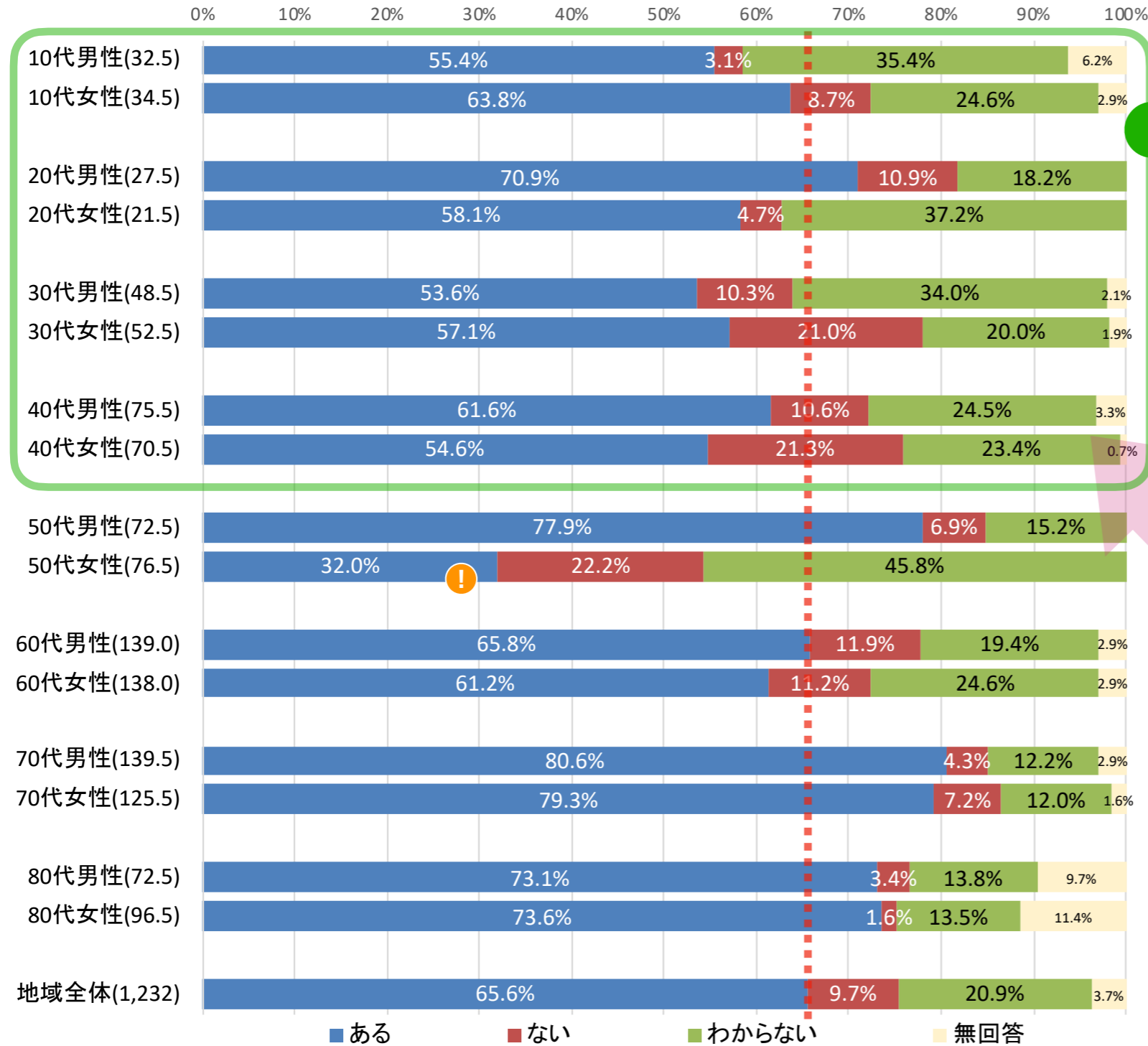


親世代の意向が、子ども世代の意向に影響していないか?!

地域への愛着の有無

村上市・神納地域 (2023)

※括弧内の数値は回答者数 (性別未回答者は按分して男女に振り分け (0.5人として各々に加算))

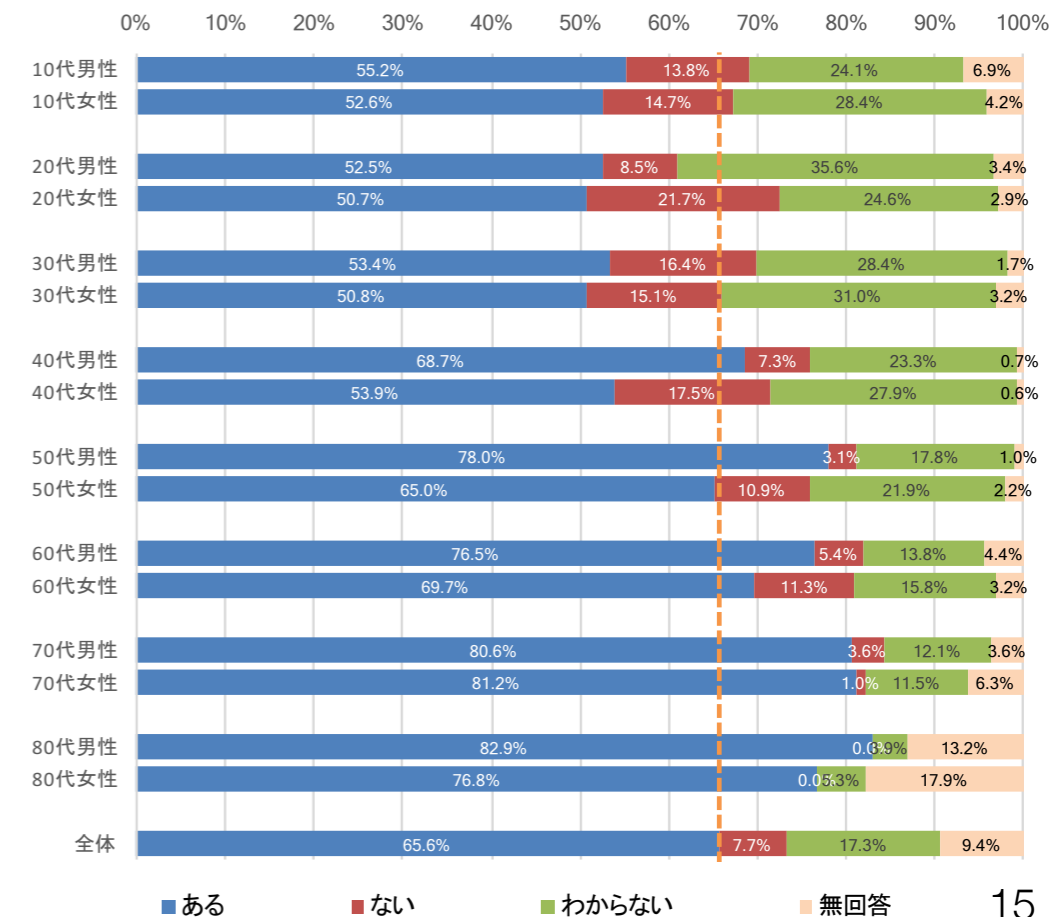


10~40代の愛着度は地域全体とほぼ差は無い
 ※10代女性・20代男性は前回調査よりも愛着度は高い!

愛着と定住意向が繋がっていないのは…
 将来への希望・安心感が足りていない!?
 (不安の方が大きい)

【注意】50代女性は愛着度が約3割 (最も低い世代)

H29年度調査時の地域への愛着



地域全体では「愛着がある」が6割以上

【注意!】前回調査 (H29) と同じ状況が維持されている。若年層の愛着度は微増している一方、50代女性は大幅に低下している。

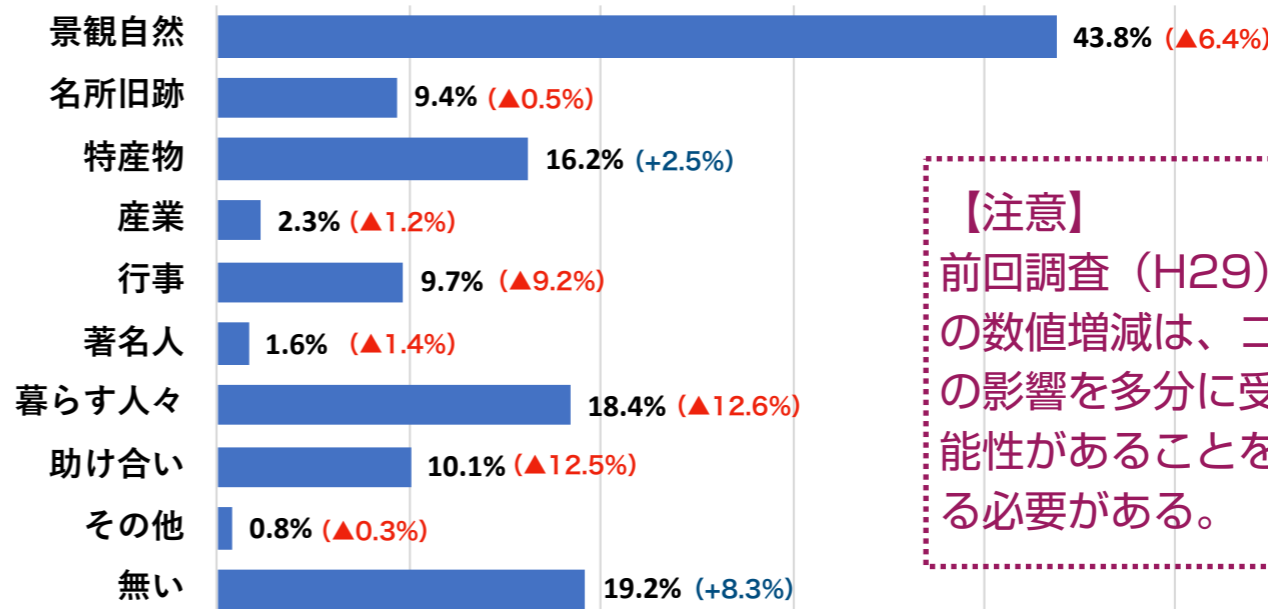
誇りに思う地域資源は何か

村上市・神納地域（2023）

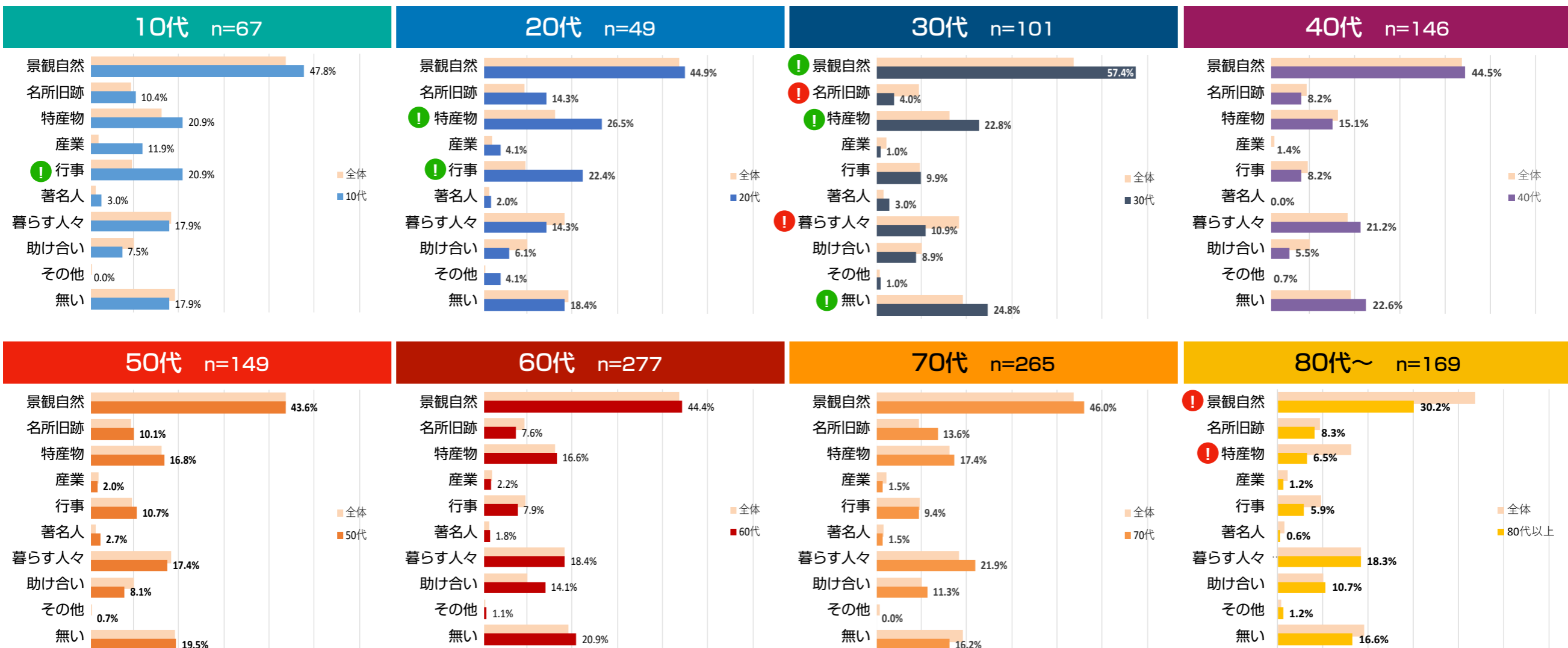
地域全体（複数回答） 括弧内は前回調査（H29）からの増減

【誇りに思う地域資源のトップ5】

- ① 景観・自然環境（43.8%）（▲6.4%）
- ② 無い（19.2%）（+8.3%）
- ③ 暮らす人々（18.4%）（▲12.6%）
- ④ 特産物（16.2%）（+2.5%）
- ⑤ 行事（14.1%）（▲9.2%）



【注意】
 前回調査（H29）からの数値増減は、コロナ禍の影響を多分に受けた可能性があることを考慮する必要がある。



! 地域平均よりも5%以上高い項目

! 地域平均よりも5%以上低い項目

日々の暮らしの心配ごと（複数回答）

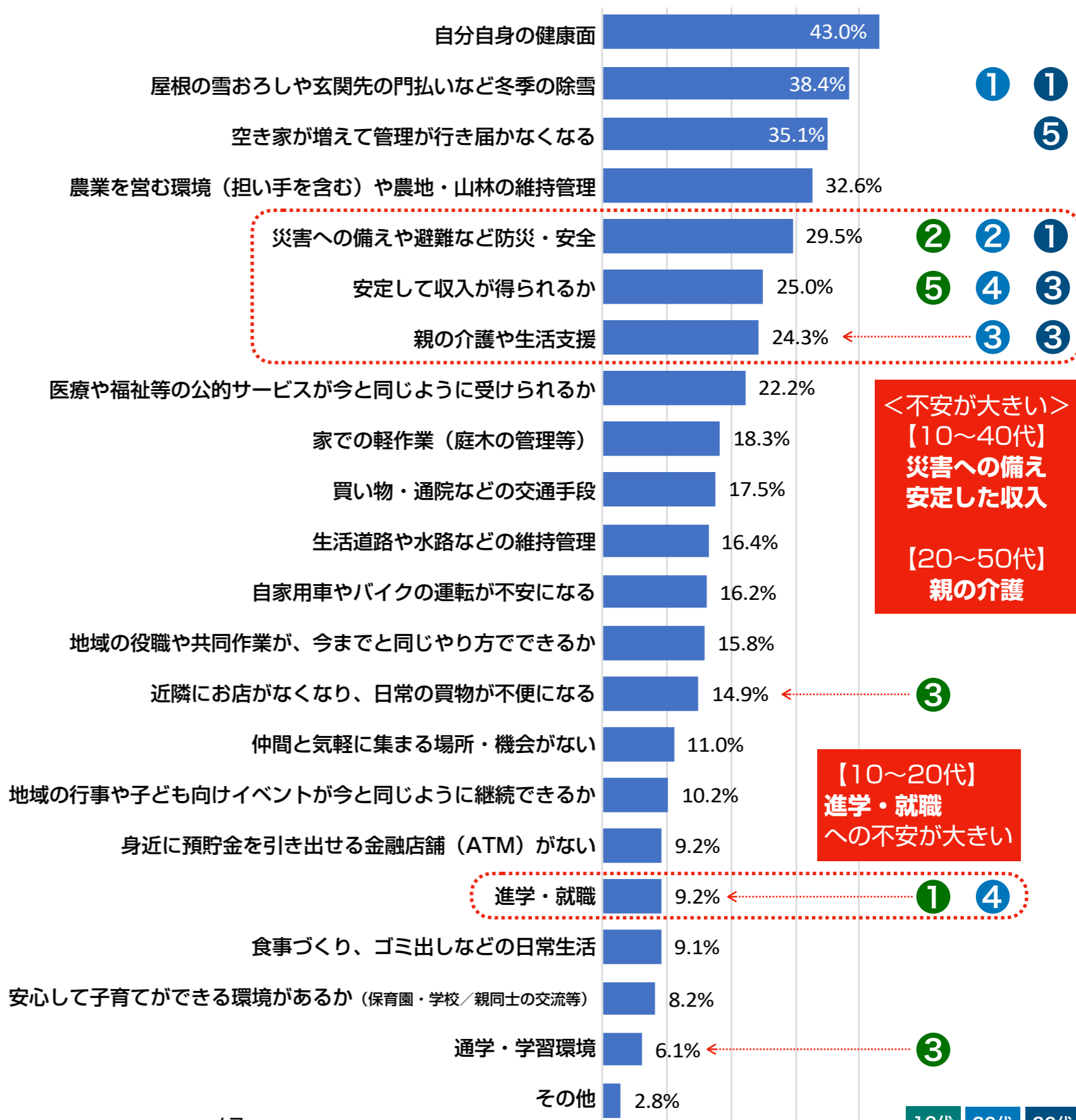
地域全体での集計結果

年代によって心配ごとは違う

10代		
1	進学・就職に関すること	35.8%
2	災害への備えや避難など防災・安全に関すること	22.4%
3	近隣にお店がなくなり、日常の買物が不便になること	19.4%
	通学・学習環境のこと	
5	安定して収入が得られるか	14.9%

20代		
1	屋根の雪おろしや玄関先の門払いなど冬季の除雪のこと	34.7%
2	災害への備えや避難など防災・安全に関すること	32.7%
3	親の介護や生活支援のこと	30.6%
4	進学・就職に関すること	22.4%
	安定して収入が得られるか	

30代		
1	屋根の雪おろしや玄関先の門払いなど冬季の除雪のこと	38.6%
	災害への備えや避難など防災・安全に関すること	
3	親の介護や生活支援のこと	34.7%
	安定して収入が得られるか	
5	空き家が増えて管理が行き届かなくなること	32.7%



<不安が大きい>
 【10～40代】
 災害への備え
 安定した収入
 【20～50代】
 親の介護

【10～20代】
 進学・就職
 への不安が大きい

日々の暮らしの心配ごと（複数回答）

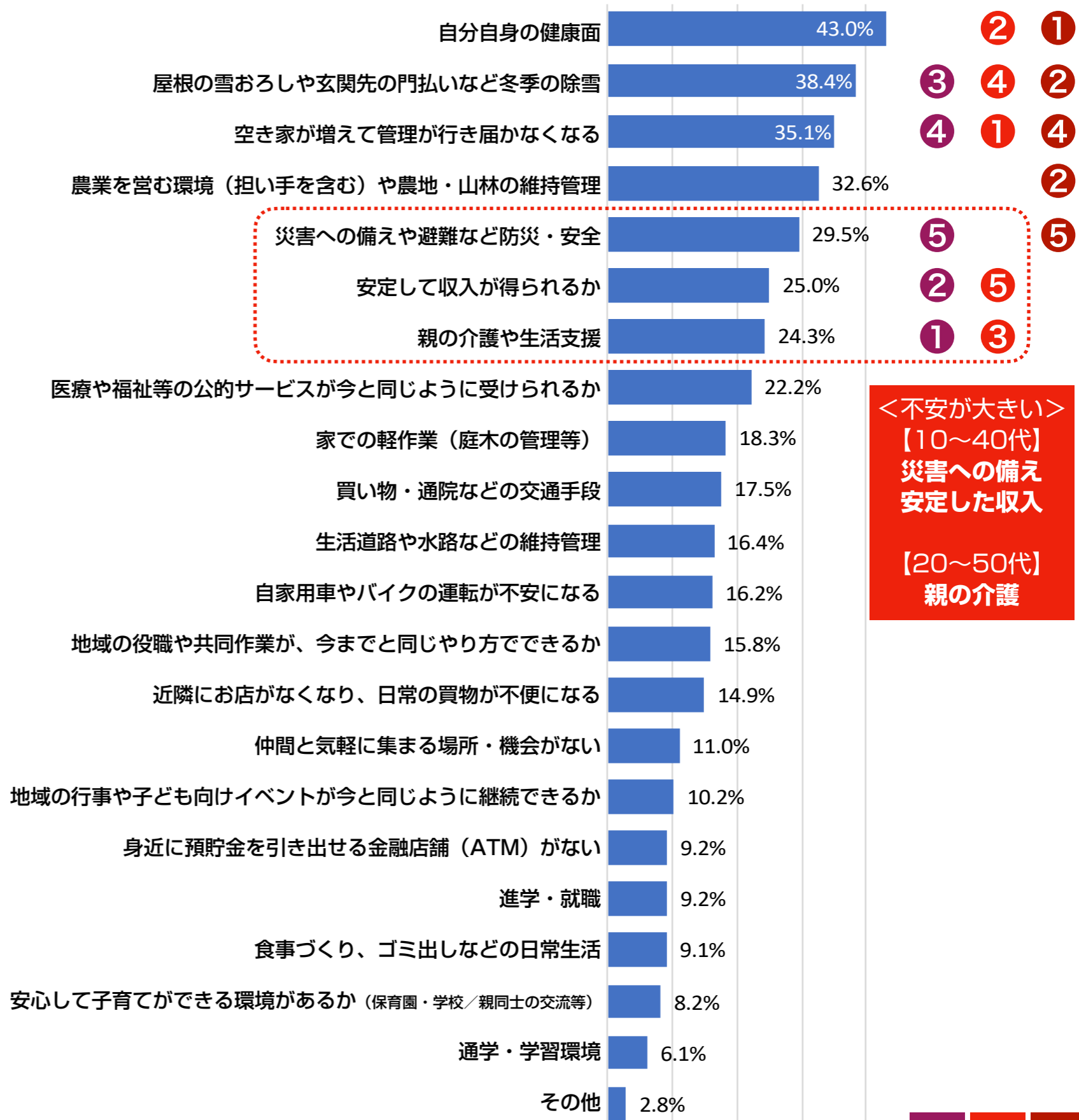
地域全体での集計結果

年代によって心配ごとは違う

40代		
1	親の介護や生活支援のこと	52.7%
2	安定して収入が得られるか	46.6%
3	屋根の雪おろしや玄関先の門払いなど冬季の除雪のこと	41.8%
4	空き家が増えて管理が行き届かなくなること	37.0%
5	災害への備えや避難など防災・安全に関すること	31.5%

50代		
1	空き家が増えて管理が行き届かなくなること	45.6%
2	自分自身の健康面のこと	43.6%
3	親の介護や生活支援のこと	41.6%
4	屋根の雪おろしや玄関先の門払いなど冬季の除雪のこと	38.3%
5	安定して収入が得られるか	36.9%

60代		
1	自分自身の健康面のこと	49.8%
2	屋根の雪おろしや玄関先の門払いなど冬季の除雪のこと	45.8%
	農業を営む環境（担い手を含む）や農地・山林の維持管理に関すること	
4	空き家が増えて管理が行き届かなくなること	42.6%
5	災害への備えや避難など防災・安全に関すること	35.4%



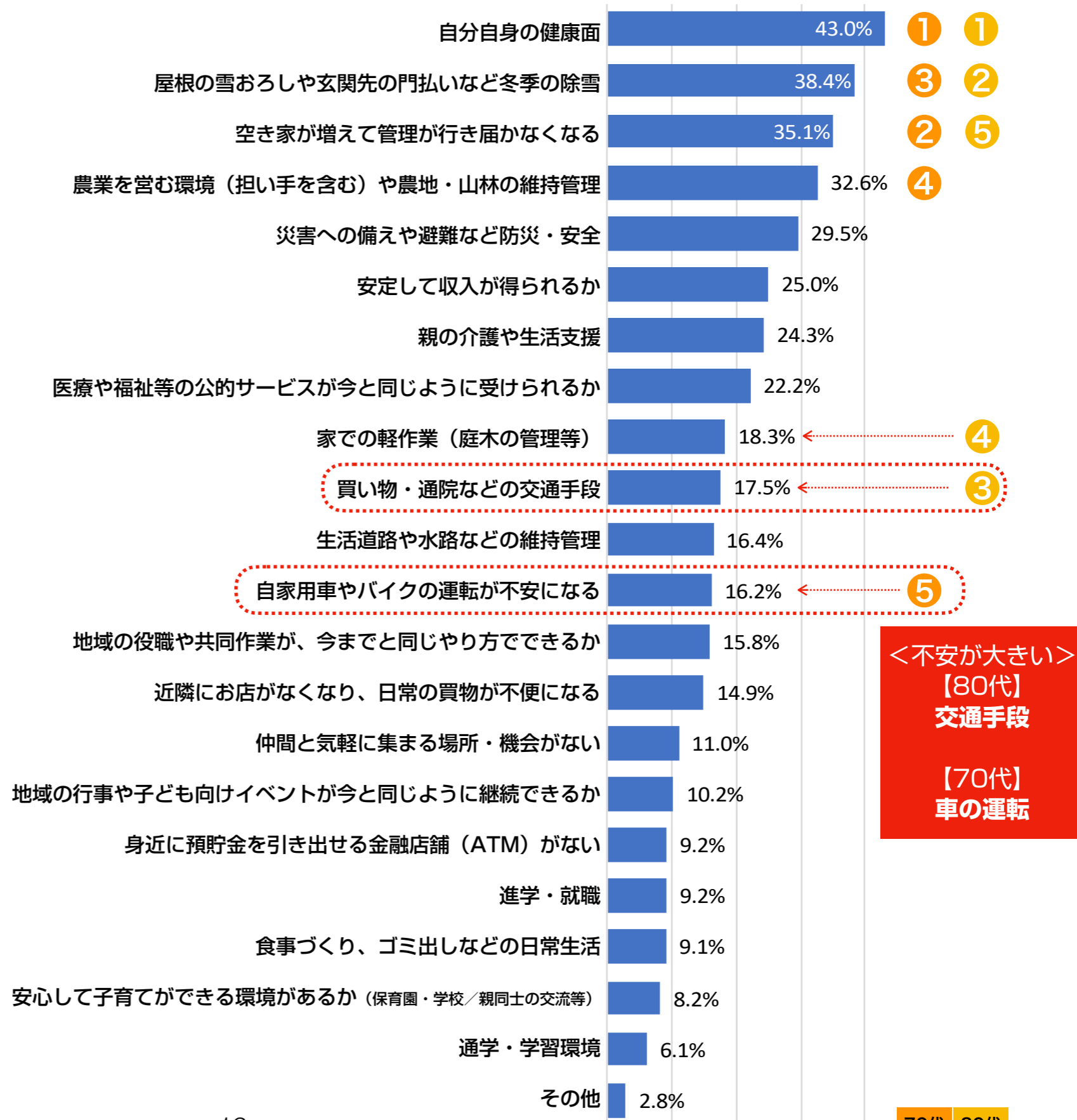
日々の暮らしの心配ごと（複数回答）

地域全体での集計結果

年代によって心配ごとは違う

70代		
1	自分自身の健康面のこと	55.8%
2	空き家が増えて管理が行き届かなくなること	37.7%
3	屋根の雪おろしや玄関先の門払いなど冬季の除雪のこと	37.0%
4	農業を営む環境（担い手を含む）や農地・山林の維持管理に関すること	36.6%
5	自家用車やバイクの運転が不安になること	26.0%

80代		
1	自分自身の健康面のこと	61.5%
2	屋根の雪おろしや玄関先の門払いなど冬季の除雪のこと	38.5%
3	買い物・通院などの交通手段に関すること	29.6%
4	家での軽作業（庭木の管理等）のこと	27.8%
5	空き家が増えて管理が行き届かなくなること	27.2%



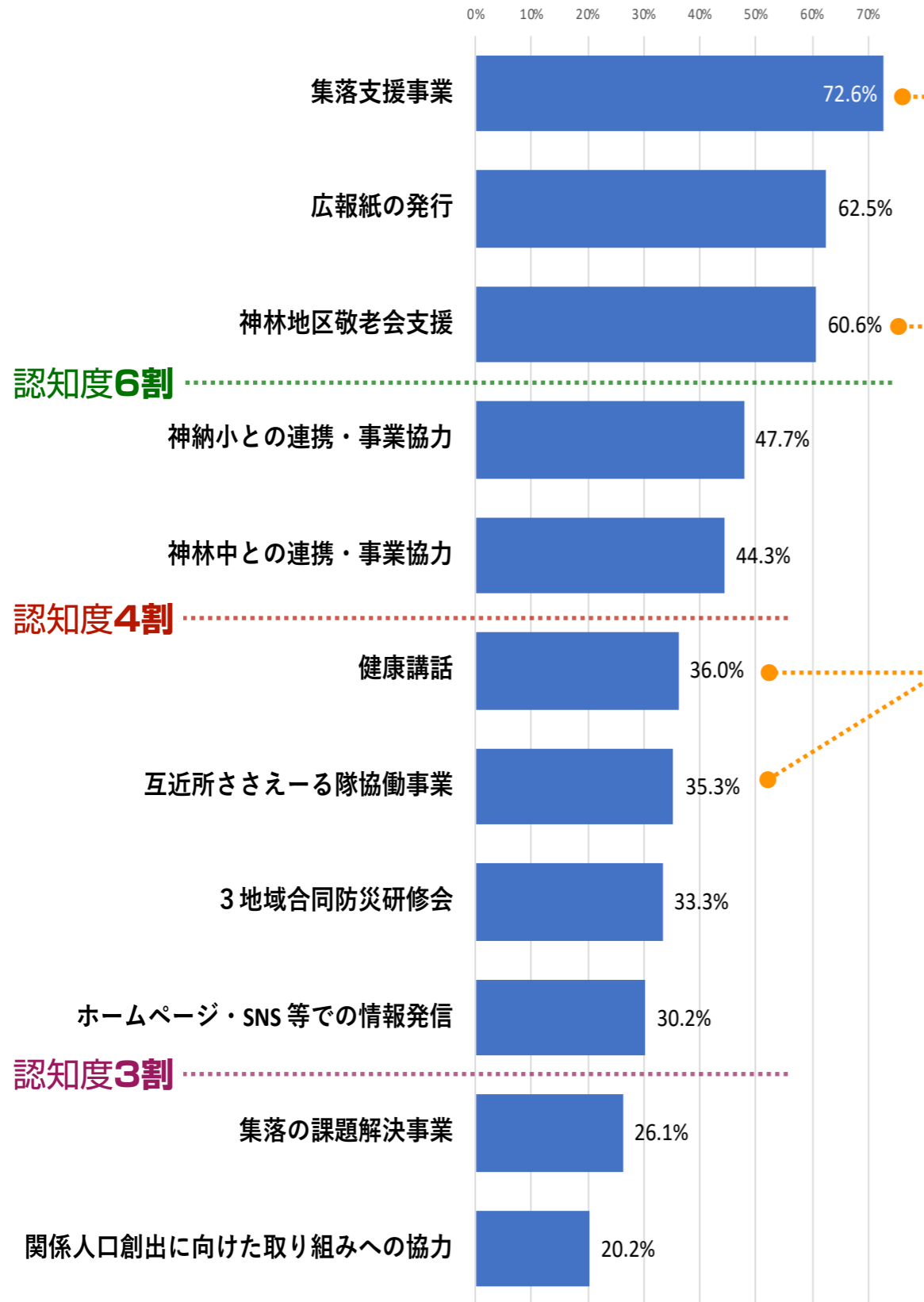
<不安が大きい>
【80代】
交通手段

【70代】
車の運転

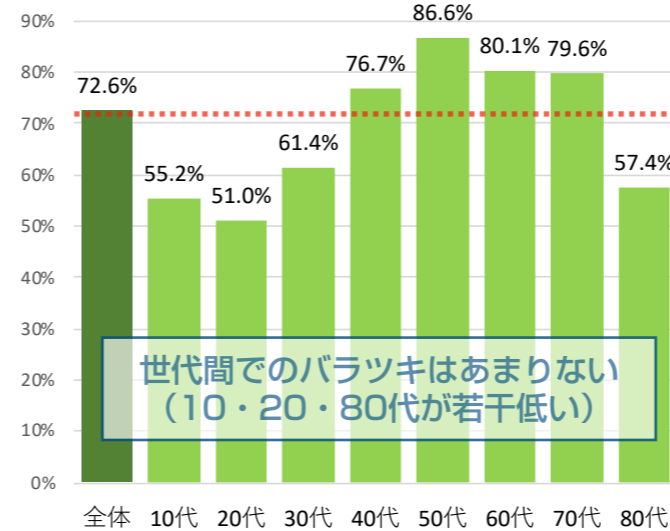
まちづくり協議会事業の認知度

村上市・神納地域（2023）

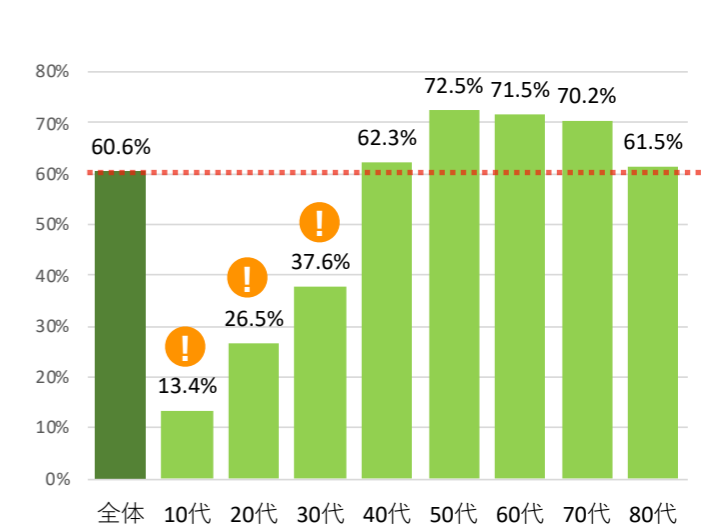
地域全体での集計結果



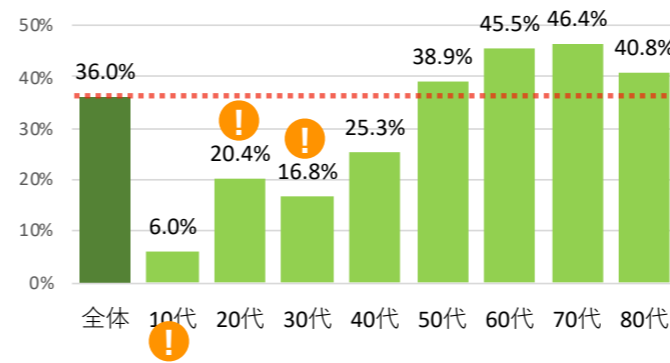
集落支援事業



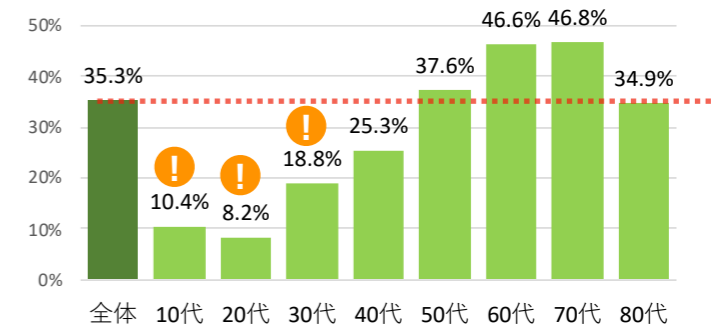
神林地区敬老会支援



健康講話

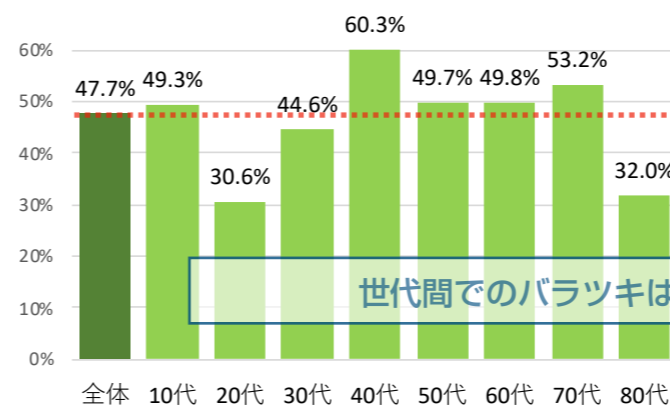


互近所ささえーる隊協働事業

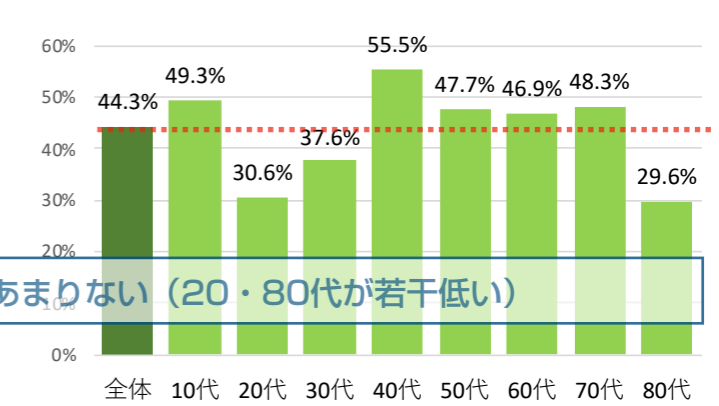


【注意】 集落活動や福祉関連の取り組み内容・意義等を若年層に伝える機会は十分か？

神納小との連携・事業協力



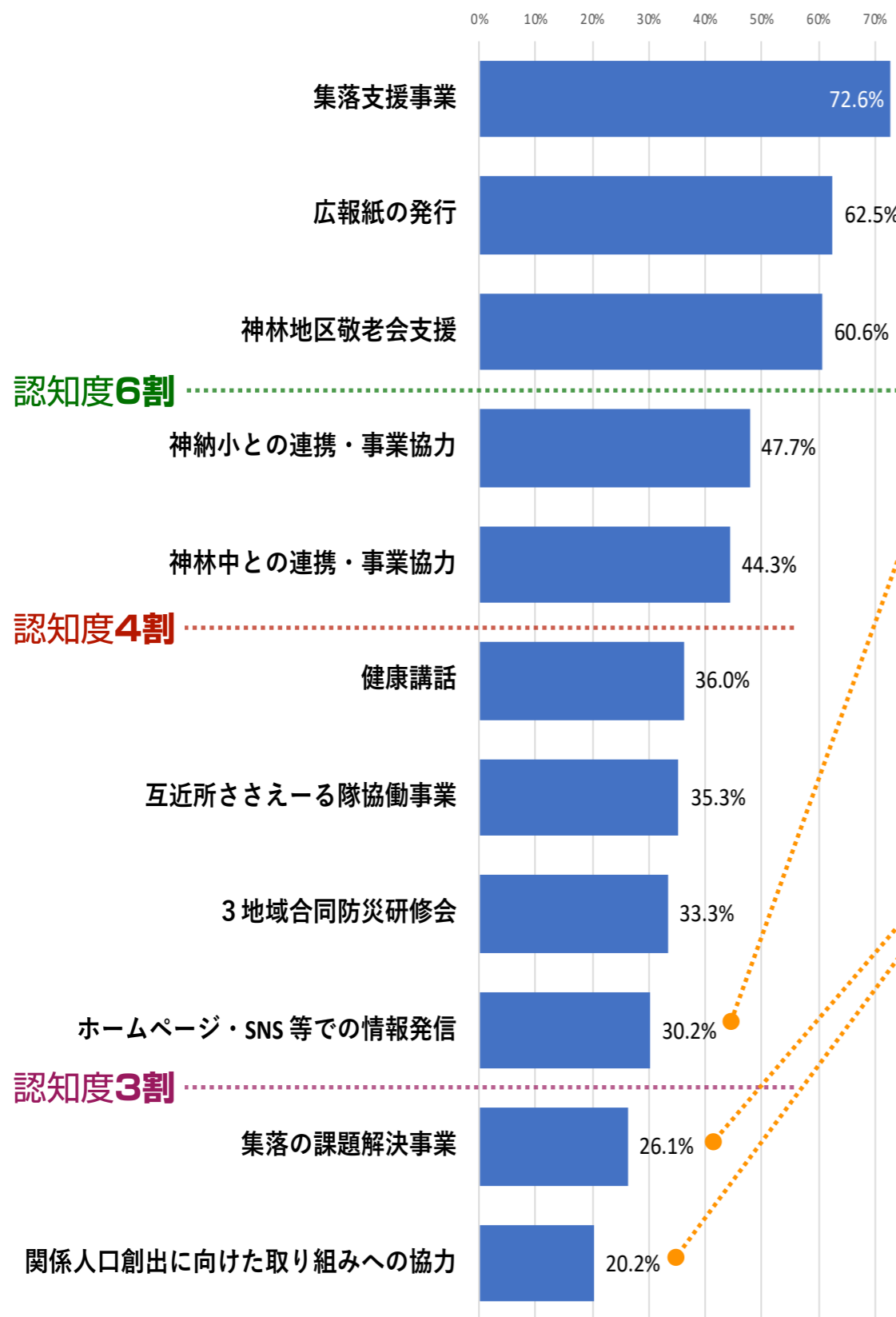
神林中との連携・事業協力



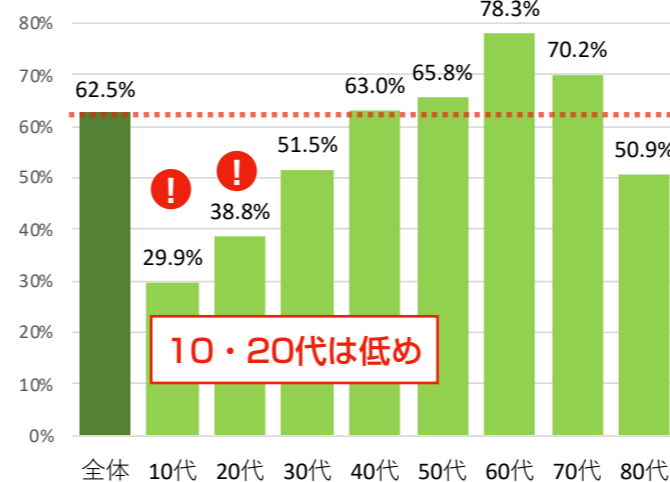
まちづくり協議会事業の認知度

村上市・神納地域（2023）

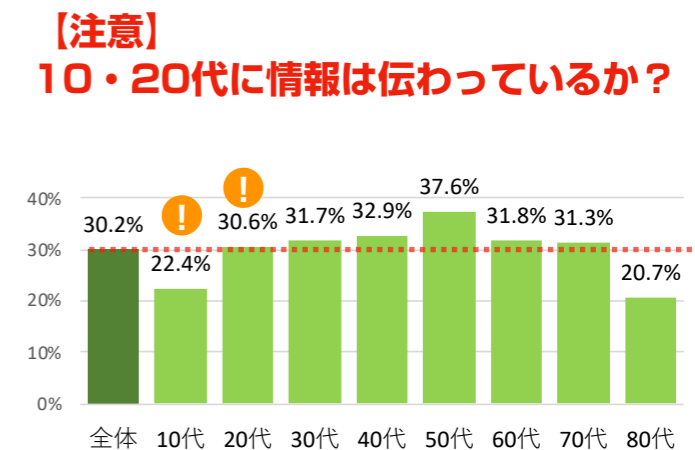
地域全体での集計結果



広報紙の発行

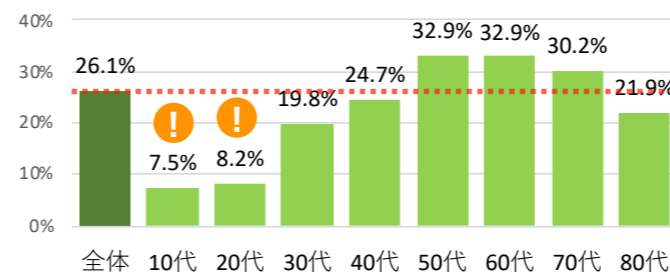


ホームページ・SNS等での情報発信

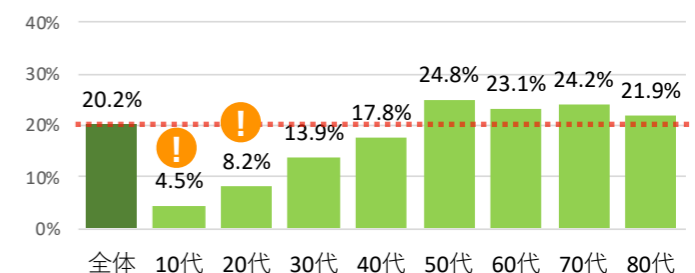


【注意】 若年層に情報が届いているか？

集落の課題解決事業



関係人口創出に向けた取り組みへの協力



【注意】 課題解決の取り組みの意義等を伝える機会は十分か？

取り組みの重要度

村上市・神納地域（2023）

【注意】 事業の認知度が重要度の回答に大きく影響している可能性があるため、「重要度の高さ＝事業の優先度」ではない。

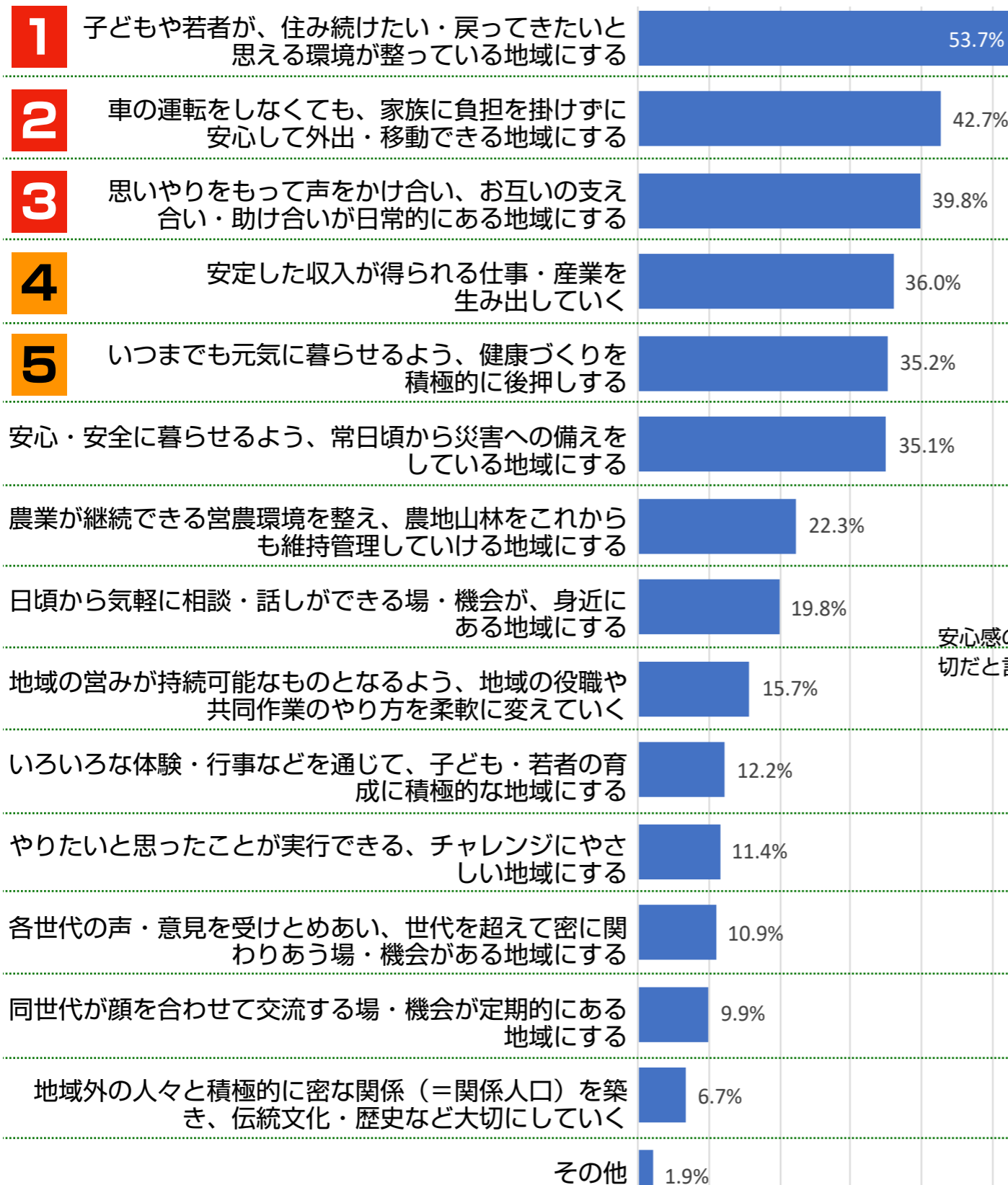
	全体	10-20代	30-40代	50-60代	70代-
1	集落支援事業 66.4%	集落支援事業 58.6%	集落支援事業 64.8%	集落支援事業 73.0%	集落支援事業 64.3%
2	3地域合同防災研修会 56.6%	神林中との連携・事業協力 54.3%	3地域合同防災研修会 59.1%	3地域合同防災研修会 66.7%	神林地区敬老会支援 58.3%
3	広報紙の発行 55.9%	神納小との連携・事業協力 53.4%	神納小との連携・事業協力 59.1%	広報紙の発行 63.1%	広報紙の発行 56.2%
4	神林地区敬老会支援 54.9%	3地域合同防災研修会 49.1%	神林中との連携・事業協力 59.1%	神林地区敬老会支援 62.9%	健康講話 53.2%
5	神納小との連携・事業協力 53.7%	広報紙の発行 44.0%	ホームページ・SNS等での情報発信 53.4%	健康講話 61.0%	3地域合同防災研修会 48.4%
6	神林中との連携・事業協力 52.9%	集落の課題解決事業 40.5%	広報紙の発行 50.6%	神納小との連携・事業協力 58.7%	神納小との連携・事業協力 46.8%
7	健康講話 51.0%	ホームページ・SNS等での情報発信 39.7%	集落の課題解決事業 49.4%	集落の課題解決事業 57.7%	神林中との連携・事業協力 45.4%
8	集落の課題解決事業 48.2%	健康講話 34.5%	神林地区敬老会支援 47.0%	神林中との連携・事業協力 57.7%	互近所ささえ一隊協働事業 44.0%
9	互近所ささえ一隊協働事業 44.7%	神林地区敬老会支援 33.6%	健康講話 39.3%	互近所ささえ一隊協働事業 55.2%	集落の課題解決事業 41.2%
10	ホームページ・SNS等での情報発信 43.9%	関係人口創出に向けた取り組みへの協力 29.3%	関係人口創出に向けた取り組みへの協力 39.3%	ホームページ・SNS等での情報発信 49.8%	関係人口創出に向けた取り組みへの協力 34.8%
11	関係人口創出に向けた取り組みへの協力 37.6%	互近所ささえ一隊協働事業 27.6%	互近所ささえ一隊協働事業 37.7%	関係人口創出に向けた取り組みへの協力 42.5%	ホームページ・SNS等での情報発信 34.8%

世代間で重要度にギャップがある事業	重要度が特に高め	神林中との連携・事業協力	神林中との連携・事業協力 HP・SNS等での情報発信	神林地区敬老会支援 健康講話	神林地区敬老会支援 健康講話
	重要度がやや低め	10~20代 神林地区敬老会支援 健康講話	30~40代 神林地区敬老会支援 健康講話	50~60代 神林中との連携・事業協力 HP・SNS等での情報発信	70代~ 神林中との連携・事業協力 HP・SNS等での情報発信

これからの地域づくりで大切なこと

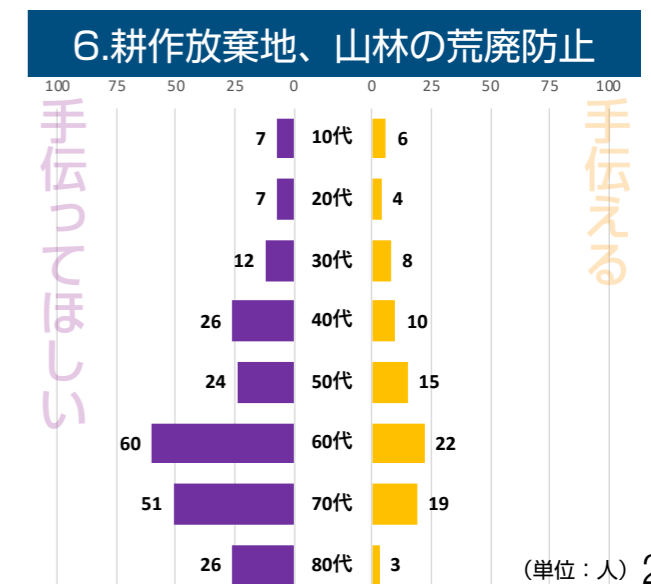
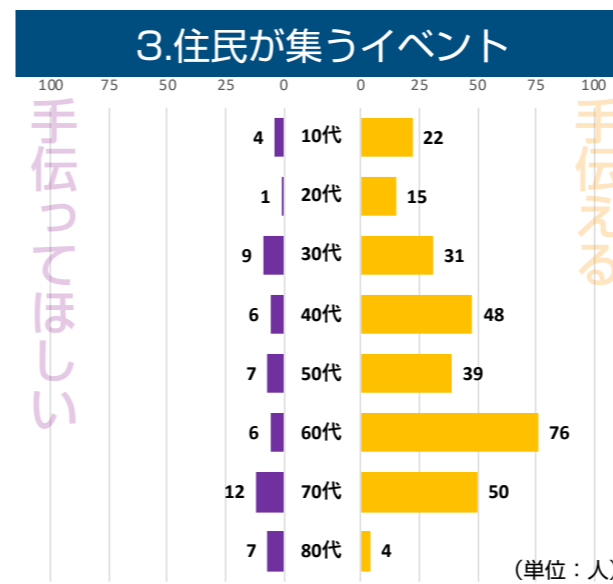
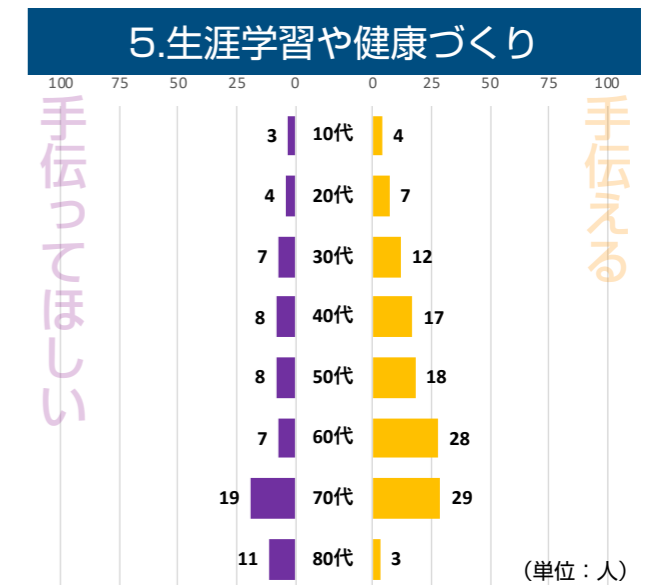
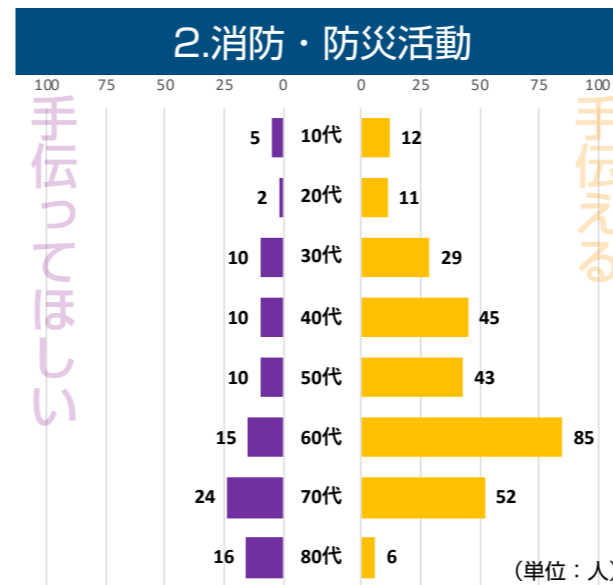
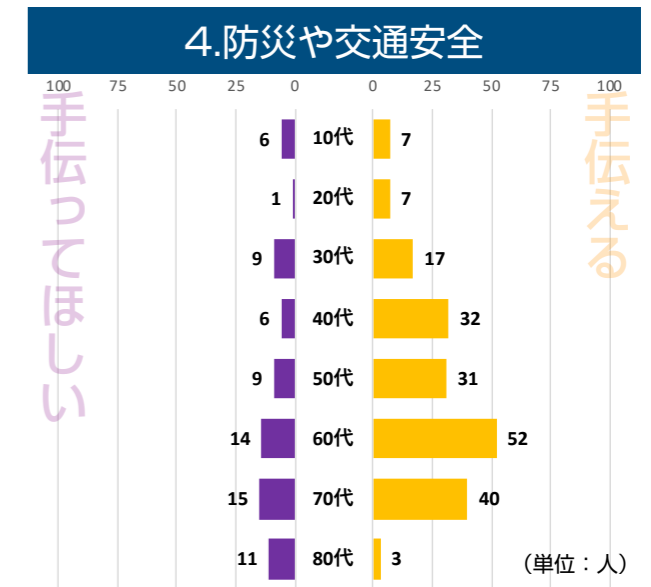
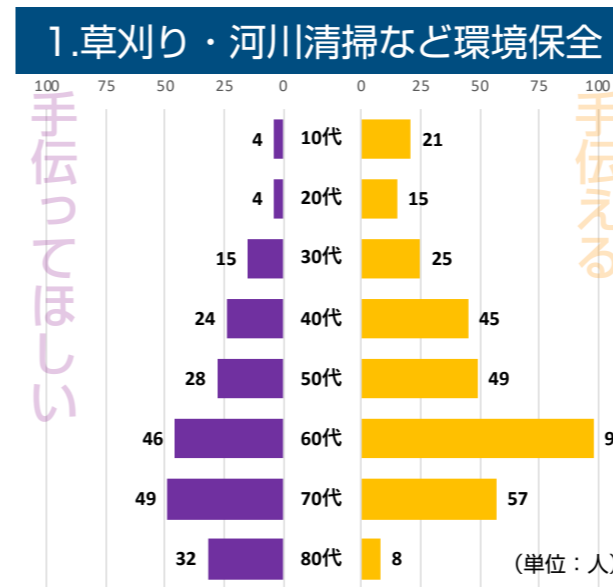
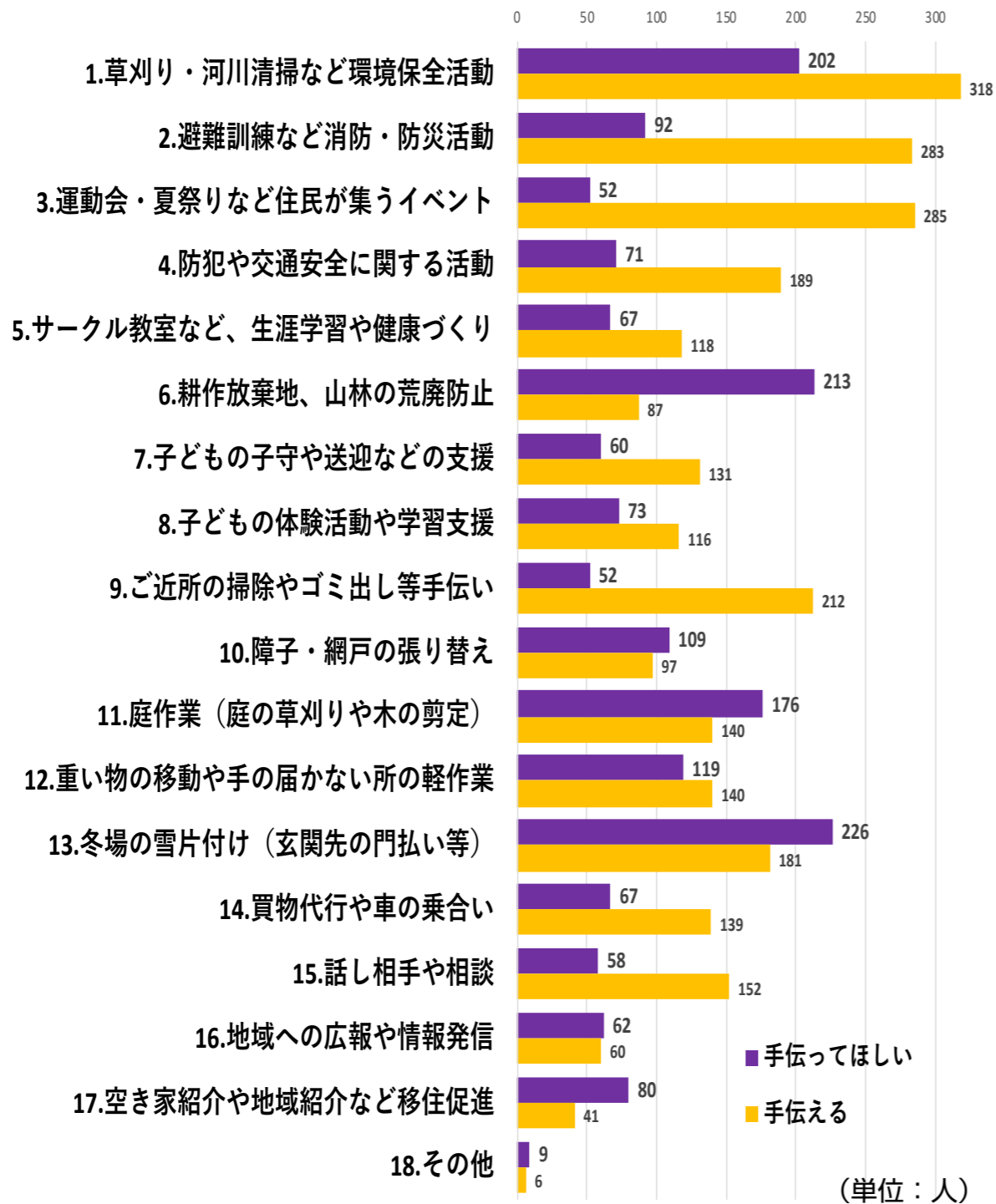
村上市・神納地域（2023）

地域全体での集計結果



手伝ってほしい / 手伝えること

村上市・神納地域（2023）



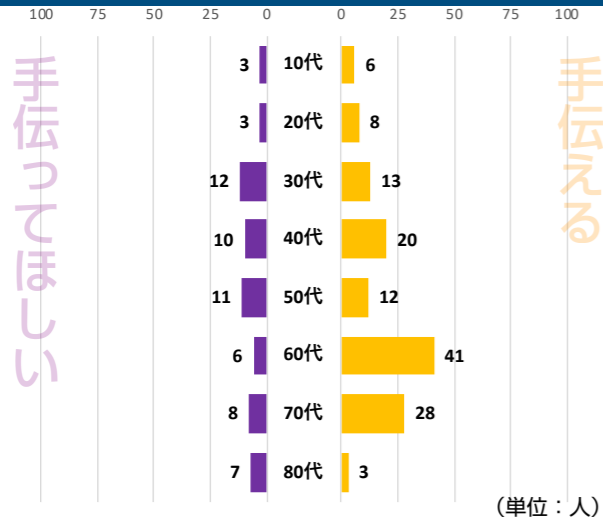
大半の作業項目で
手伝ってほしい < 手伝える

共助の担い手となる住民は、潜在的にかなりの人数がいる！

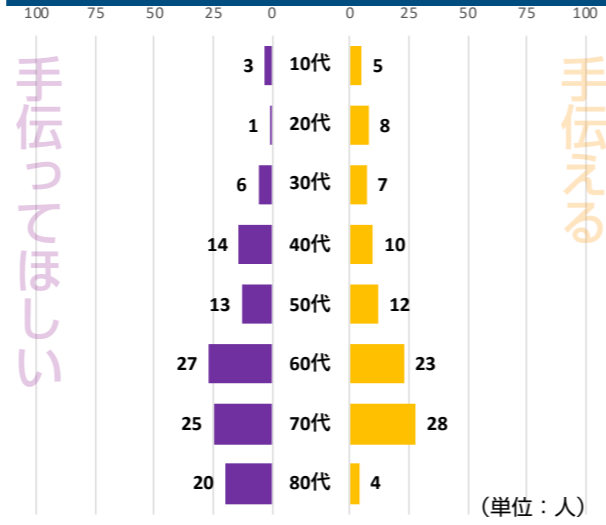
手伝ってほしい / 手伝えること

村上市・神納地域 (2023)

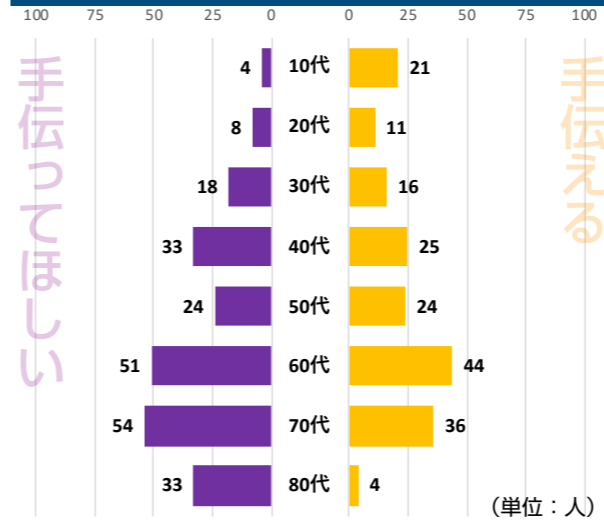
7. 子守や送迎などの支援



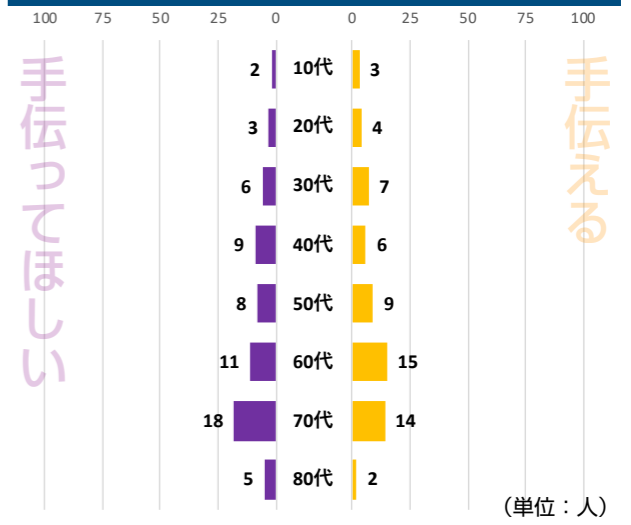
10. 障子・網戸の張り替え



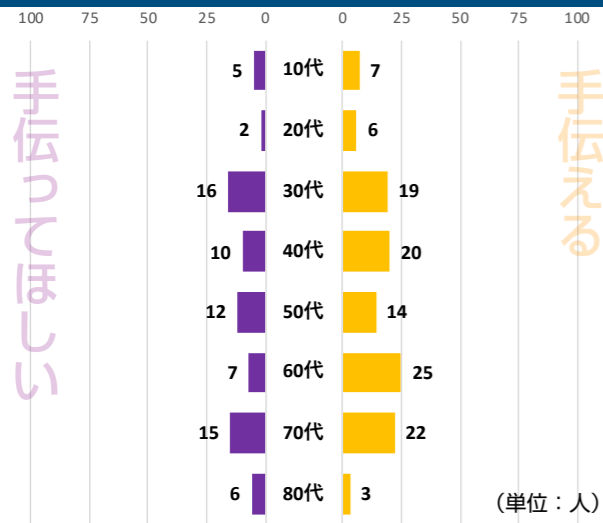
13. 冬場の雪片付け (玄関先の門払い等)



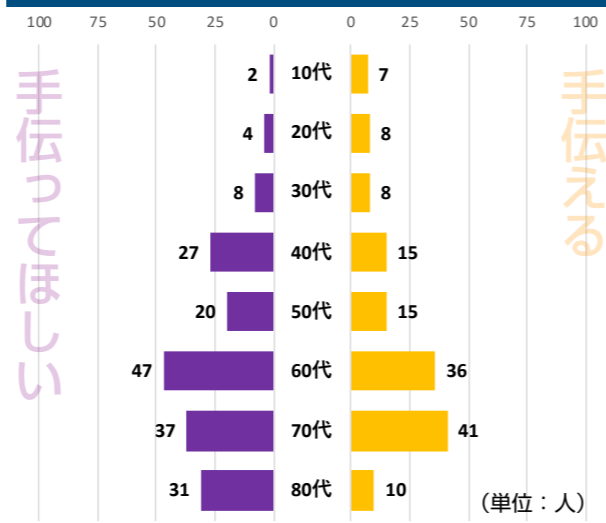
16. 地域への広報や情報発信



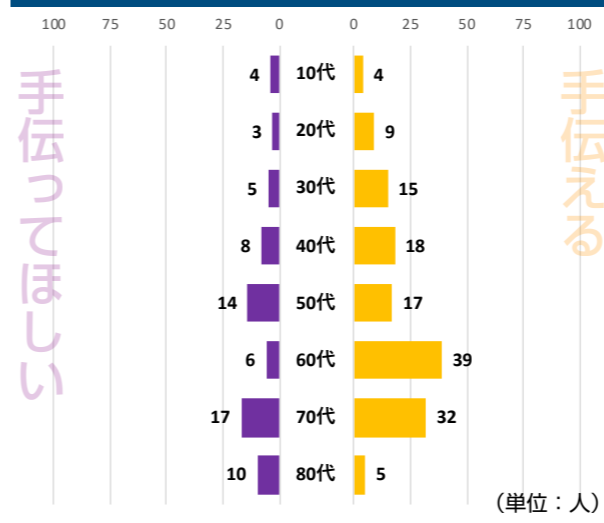
8. 子どもの体験活動や学習支援



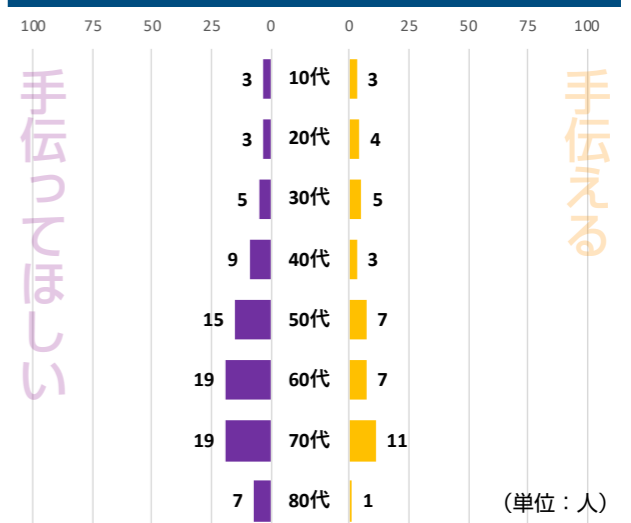
11. 庭作業 (庭の草刈りや木の剪定)



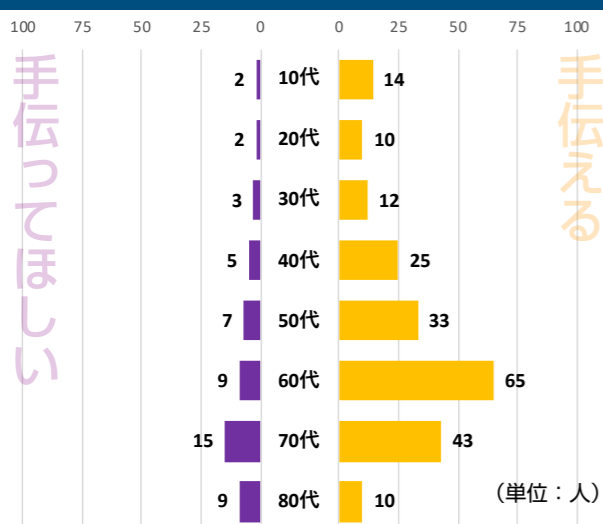
14. 買い物代行や車の乗り合い



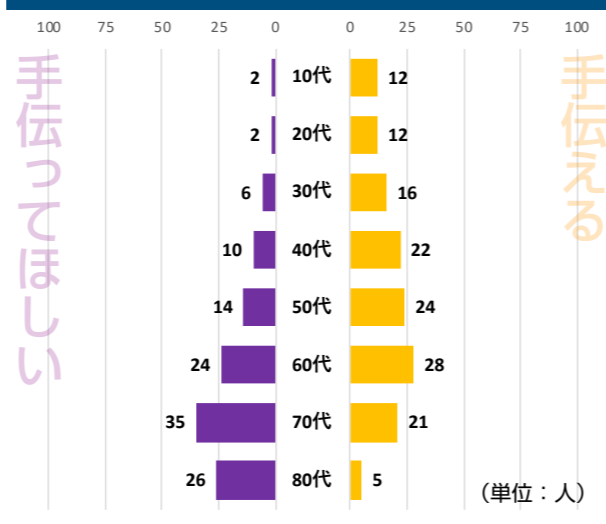
17. 空き家紹介等移住促進



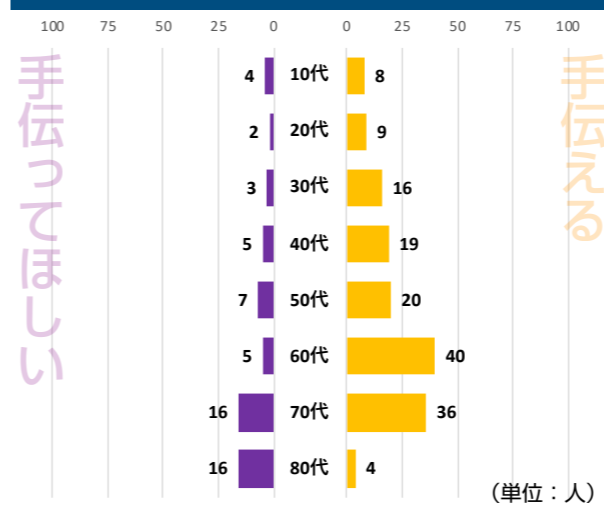
9. 掃除やゴミ出し等手伝い



12. 重い物の移動など軽作業



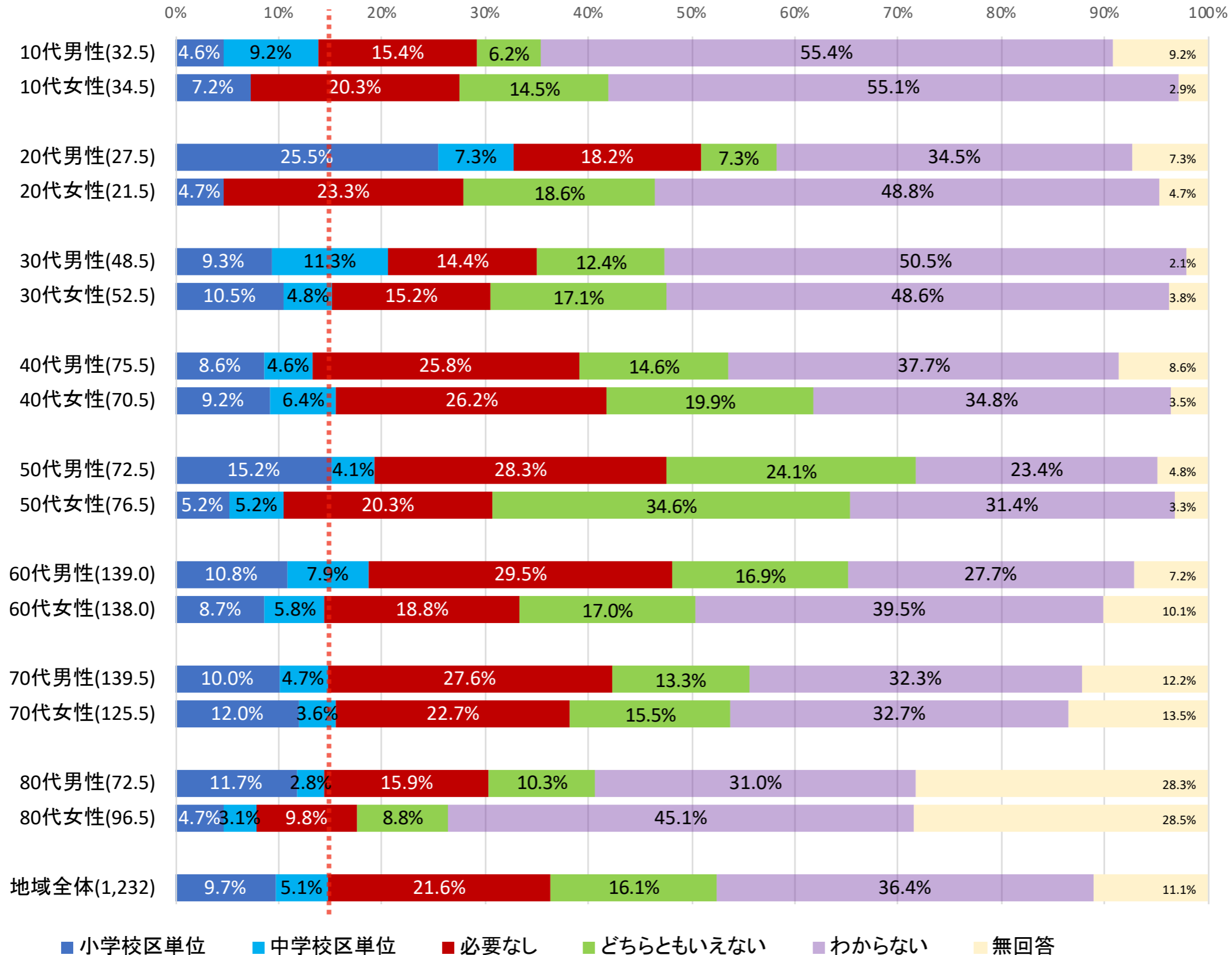
15. 話し相手や相談



まち協を小中学校区に合わせて再編すべきか？

村上市・神納地域（2023）

※括弧内の数値は回答者数（性別未回答者は按分して男女に振り分け（0.5人として各々に加算））



再編の必要性を感じているのは地域全体では一割半ば
必要性を感じていない住民は2割前後

路線バスの利用状況

村上市・神納地域 (2023)

利用状況

ほぼ毎週利用している
月に数回利用している
年に数回利用している

6人 / 1,232人 (0.5%)
3人 / 1,232人 (0.2%)
22人 / 1,232人 (1.8%)

利用していない **1,101**人 / 1,232人 (89.4%)

※回答なし：100人

最も利用する路線

村上～松喜和～小岩内線 **1**人
村上～瀬波温泉～岩船駅線 **3**人
下関～新町～村上線 **25**人
※回答なし：2人

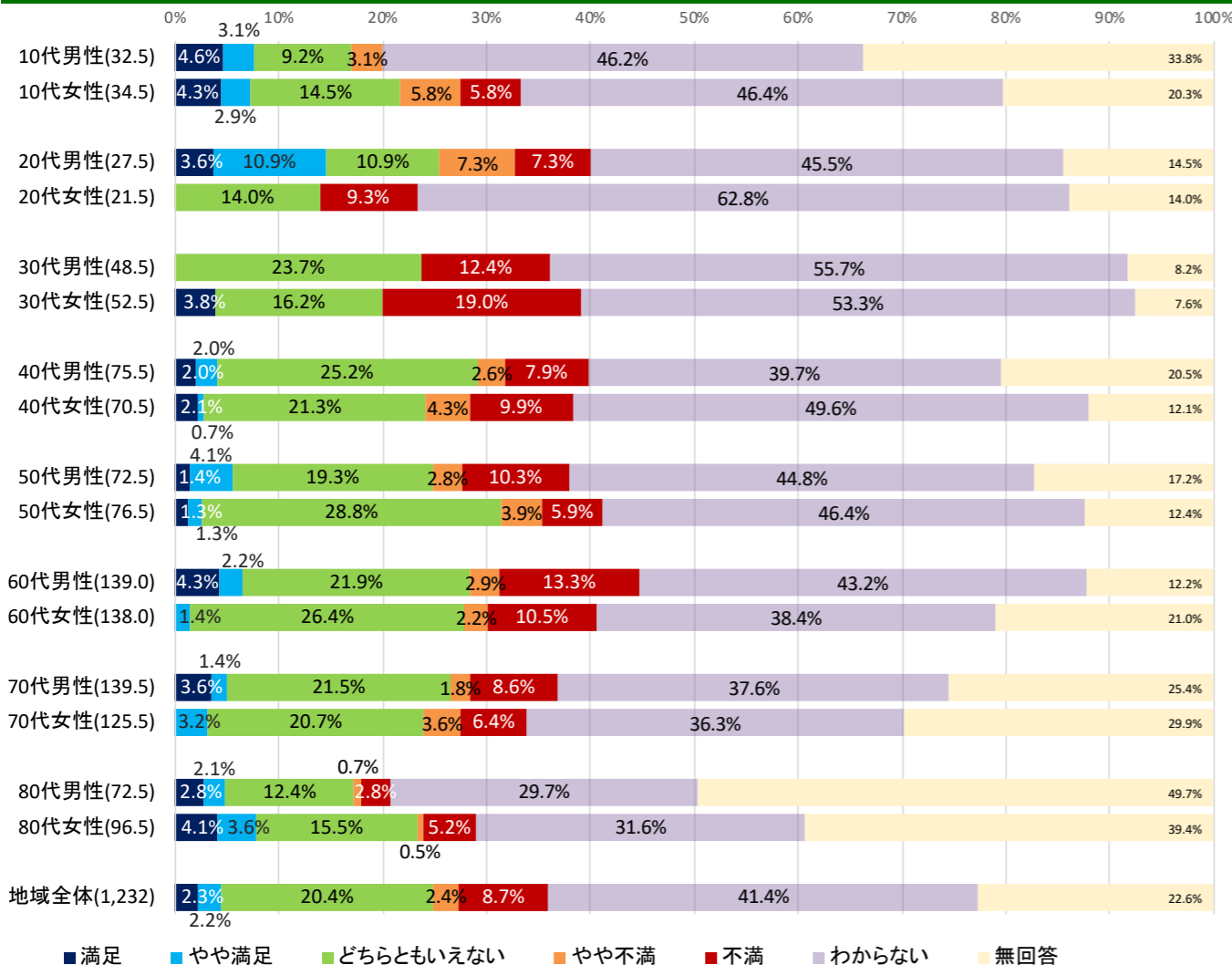
利用目的 (複数回答)

通院 : 13 懇親会出席 : 3
買物 : 7 生涯学習等 : 0
家庭の用事 : 4 その他 : 1
通勤通学 : 10
会議出席 : 1

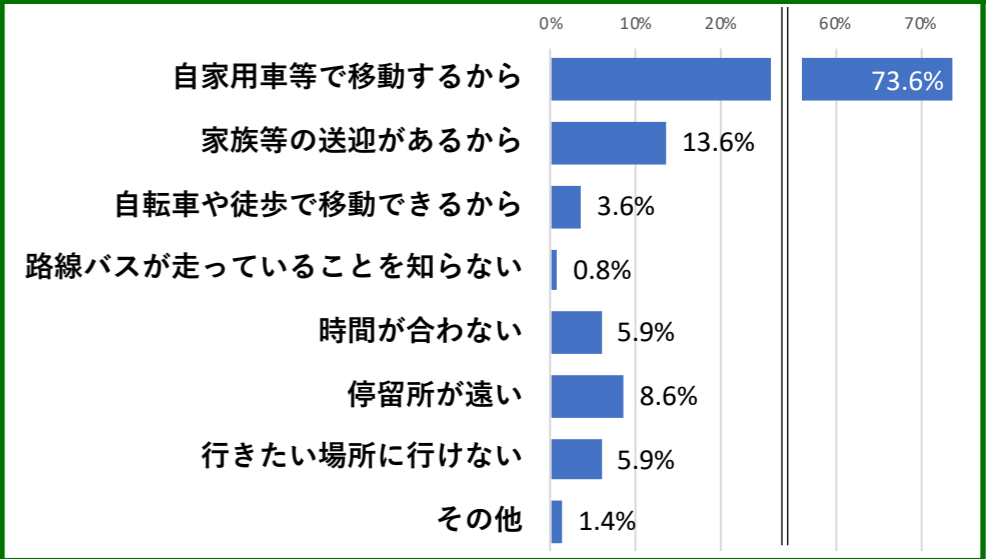
最も利用する降車場所

村上営業所 : 4人 小出 : 3人 回答無し : 15人
桃川下 : 3人 二之町 : 2人
桃川中 : 3人 田口 : 1人

路線バスの満足度



利用しない理由 (複数回答)



路線バスの満足度は高くはない。

※そもそも利用していないため4割以上が「わからない」と回答

乗り合いタクシーの利用状況

村上市・神納地域 (2023)

利用状況

ほぼ毎週利用している
月に数回利用している
年に数回利用している

3人 / 1,232人 (0.2%)
9人 / 1,232人 (0.7%)
28人 / 1,232人 (2.3%)

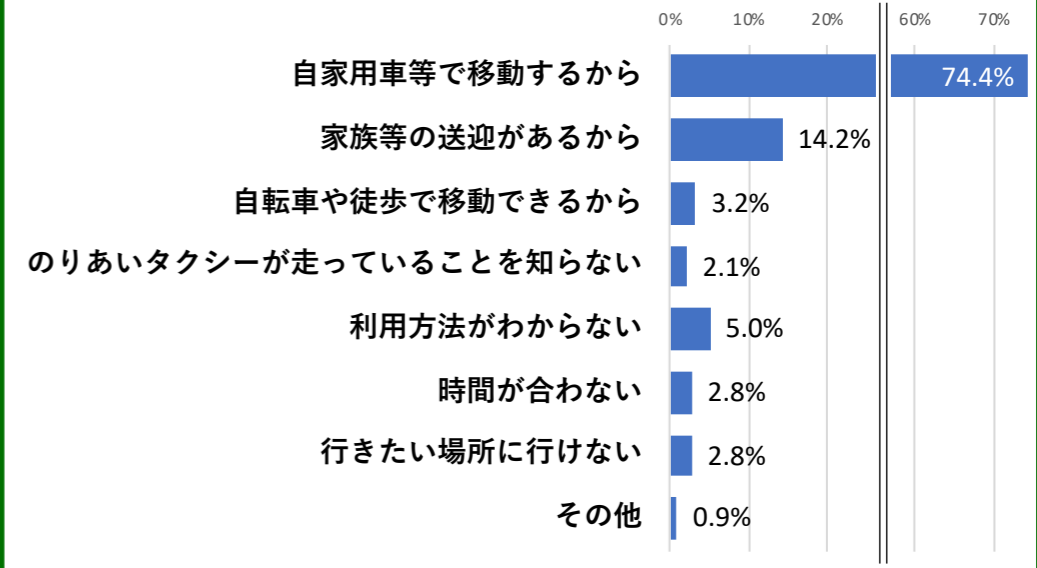
利用していない **1,105**人 / 1,232人 (89.7%)

※回答なし：87人

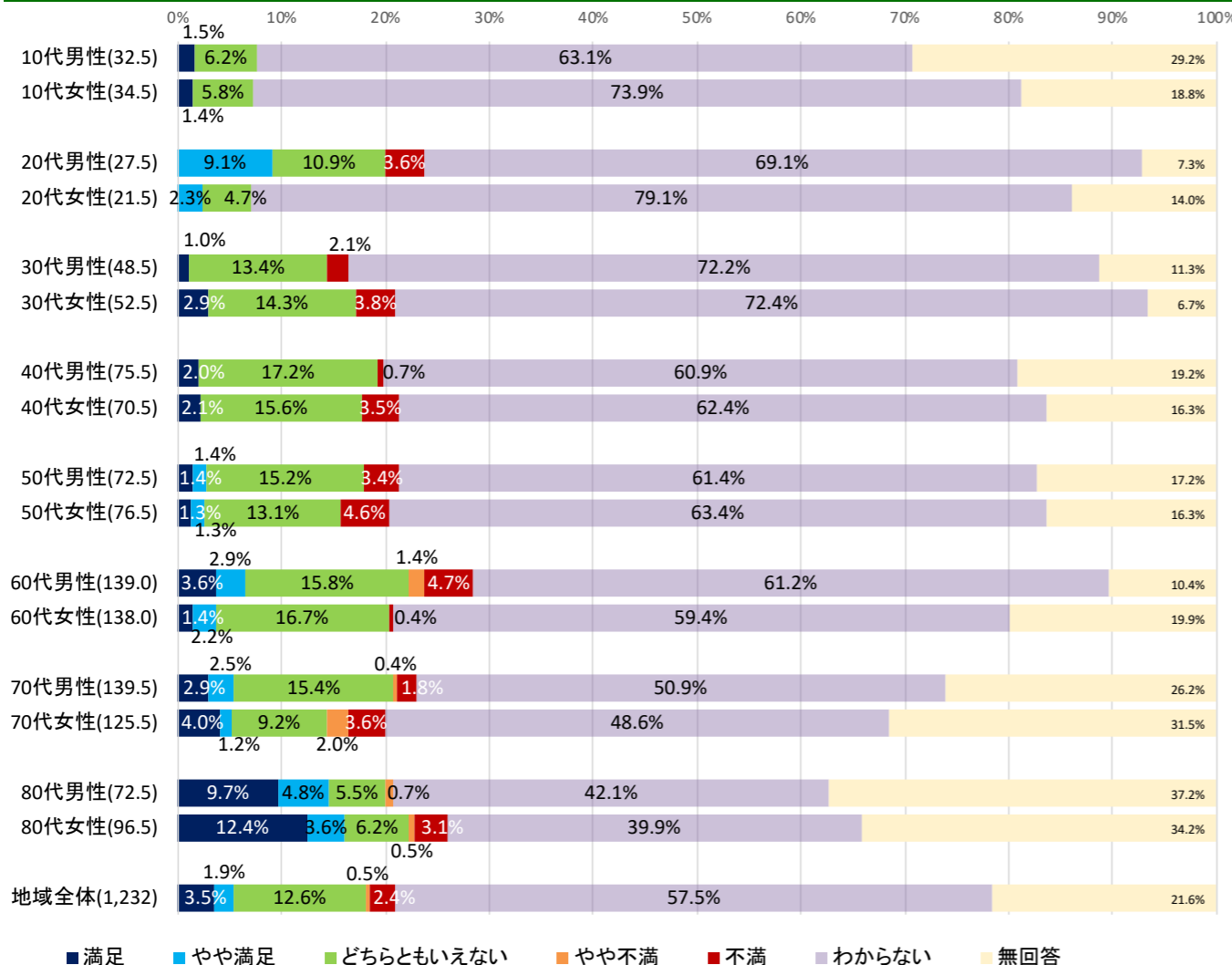
利用目的 (複数回答)

通院 : 40
買物 : 4
家庭の用事 : 2
通勤通学 : 0
会議出席 : 0
懇親会出席 : 0
生涯学習等 : 1
その他 : 1

利用しない理由 (複数回答)



乗り合いタクシーの満足度



利用者が少ないこともあり、6割近くが「わからない」と回答

☑ 農業従事者の84.2%が60代以上

- ▶ このままだと20年後には70人程度（現在の1/3）になってしまいう見込み。



農地の維持管理は将来的どうなる？

☑ 80代になり自分で車の運転ができなくなっても、親族等による車での送迎で移動手段は確保されている

- ▶ 80代になると、免許なし（返納含む）の割合が増加し、「車での送迎」が主な移動手段になる割合が高まる。（特に女性）
- ▶ 60～70代の3～4割が単身もしくは夫婦のみ世帯という家族構成。二世代以上同居の割合は約5割。80代は約7割と高い。
- ▶ 女性は運転に不安を感じている（特に夜間や冬期）割合が男性よりも高い。



親族等による車での送迎を、今後も同じようにあてにできるか？

将来的に公共交通はこのままで本当によいのか？!

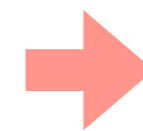
☑ 路線バス・乗り合いタクシーはほとんど利用されていない

- ▶ 月数回以上、路線バスを利用しているのは0.7%、のりあいタクシーは0.9%という状況。



☑ 集落内・地区内共に約2/3が相談相手がいる

- ▶ 10代は5～6割、20代は7～8割が集落内に相談相手がない。（30～40代も4～5割）
- ▶ 20代は約半数が地区内にも相談相手がない。（80代も4～5割）



若年層のコミュニケーション機会のあり方・頻度を考えていく必要があるのでは？

☑ 4割以上が関心の有無に関わらず地域活動に参加している

- ▶ 30～70代男性は5～6割が参加。
- ▶ 関心あり＋不参加はどの年代でも3～5割いる。
- ▶ 女性は「関心あり＋不参加」の割合が男性よりも高い。
- ▶ 20代女性は「関心なし＋不参加」が6割近く。
- ▶ 前回調査（H29）と比較すると、全体的に参加率は微増。20代女性・50代女性は「関心なし＋不参加」の割合が上昇。



参加の機会・方法のさらなる多様化を！

☑ 20～50代で土曜日が毎週休日であるのは約1/3。日曜日が毎週休日なのは6～7割という状況。

- ▶ 働いている世代は、必ずしも土曜日が休日ではない。



☑近所づきあいについては、半数以上が「悩みなし」

- ▶ 30・40・60代は、「わずらわしさ」が若干高め。
- ▶ 30・50・60代は「仕事・行事が多くて忙しすぎる」の割合が高く、多忙さ・負担の大きさを、より強く感じている。

これまでのやり方・活動内容を見直し、負担の軽減を図っていくことが不可避！

☑半数近くが移住・定住者の受け入れは必要と考えている

- ▶ 20・30・50代男性は「必要」という回答が6～7割。

積極的に受け入れることを望む声が多い

☑他地域との交流の必要性は4割以上が「わからない」

- ▶ どの年代も賛否が半々。

地域としてはあまり積極姿勢ではない

☑誇りに思う地域資源（トップ5） 括弧内は前回調査（H29）からの増減

- ①景観・自然環境（43.8%） (▲6.4%)
- ②無い（19.2%） (+8.3%)
- ③暮らす人々（18.4%） (▲12.6%)
- ④特産物（16.2%） (+2.5%)
- ⑤行事（14.1%） (▲9.2%)

前回調査（H29）からの数値増減は、コロナ禍の影響を多分に受けた可能性があることを考慮する必要がある。

☑ 「この地域に住み続けたい」 は地域全体では6割以上

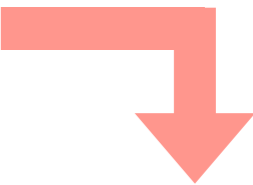
- ▶ 10代と20～50代女性の定住意向は3～4割と低い（ただし「わからない」も4割以上）
- ▶ 前回調査（H29）に比べ、10・20代の定住意向は微増しているが、30～50代女性は低下（特に50代女性は大幅減）

☑ 「自分の子どもにも住み続けてほしい」 は地域全体で4割以上

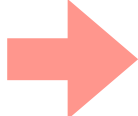
- ▶ 10～40代・50代女性は「住み続けてほしい」が2～3割と低い。（ただし「わからない」が4～5割）
- ▶ 20・40・50代女性は「住み続けてほしいとは思わない」の方が多い。
- ▶ 前回調査（H29）に比べ、すべての年代で子どもへの定住希望が低下している。（40～50代の子育て中の親世代は特に）

☑ 地域全体では6割以上が「地域に愛着がある」

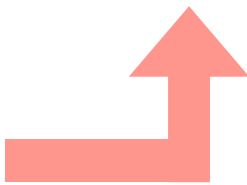
- ▶ 10～40代の愛着度は地域全体とほぼ差は無い。
- ▶ 10代女性・20代男性は前回調査よりも愛着度は高い！
- ▶ 前回調査（H29）と同じ状況が維持されている。若年層の愛着度は微増している一方、50代女性は大幅に低下している



「わからない」が多いということは、これからの取り組み次第！



愛着があっても定住意向が低いのは、将来への希望・安心感が足りていないことが要因!?



☑まち協事業の認知度

- ▶ 「集落支援事業」「広報紙発行」「敬老会支援」は6割以上が認知。
- ▶ 「健康講話」「互近所ささえーる隊協働事業」などの福祉関連の取り組みは、10～30代の認知度が低い。
- ▶ 「広報紙の発行」「HP・SNS等での情報発信」は10代の認知度が低め。

集落活動や福祉関連の取り組み内容・意義等を若年層に伝える機会は十分か？

若年層に情報が届いているか？

☑まち協事業の重要度（トップ5）

- ①集落支援事業
- ②3地域合同防災研修会
- ③広報紙の発行
- ④神林地区敬老会支援
- ⑤神納小との連携・協働事業

<特定の年代で重要度が高い事業>

- 【10～40代】神林中との連携・事業協力
- 【30～40代】HP・SNS等での情報発信
- 【50代～】健康講話

<特定の年代で重要度が低い事業>

- 【10～40代】神林地区敬老会支援＋健康講話
- 【50代～】神林中との連携・事業協力
HP・SNS等での情報発信

年代によって意向は異なる。各々の考えをよく吟味して考えている必要がある。

☑日々の暮らしの不安・心配ごと（トップ5）

- ①自自分自身の健康面
- ②屋根の雪おろしや玄関先の門払いなど冬季の除雪
- ③空き家が増えて管理が行き届かなくなる
- ④農業を営む環境（担い手を含む）や農地・山林の維持管理
- ⑤災害への備えや避難など防災・安全

<特定の年代で不安が大きい項目>

- | | |
|---------------|-----------------------|
| 【10～20代】進学・就職 | 【10～40代】災害への備え・安定した収入 |
| 【20～50代】親の介護 | 【70代】車の運転 【80代】交通手段 |

☑これからの地域づくりで大切なこと（トップ5）

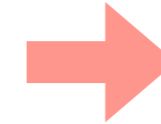
- ①子どもや若者が、住み続けたい・戻ってきたいと思える環境が整っている地域にする
- ②車の運転をしなくても、家族に負担を掛けずに安心して外出・移動できる地域にする
- ③思いやりをもって声をかけ合い、お互いの支え合い・助け合いが日常的にある地域にする
- ④安定した収入が得られる仕事・産業を生み出していく
- ⑤いつまでも元気に暮らせるよう、健康づくりを積極的に後押しする

地域の暮らし・営みを持続可能なものとするための取り組み・将来への備えが、強く求められている。

ただし、年代によって上位にランキングされている内容は異なる。各々の内容をさらに深掘りしていくことが大切。

☑共助の担い手となる住民は潜在的にいる！

- ▶ 大半の作業項目で、「手伝ってほしい」よりも「手伝える」人数の方が多い。
- ▶ 作業項目によっては、若者・中堅世代も、それなりの人数が「手伝える」と回答。



お互いさまで暮らしを支え合う仕組みを構築できれば、住民同士での共助が成立する土壌はある！

☑まち協再編の必要性を感じているのは1割半ば

- ▶ 必要性を感じていない住民は2割前後。



再編の必要性を感じているのは一部のみ。